
平成 20 年度 平塚市美術館年報

ANNUAL REPORT of the Hiratsuka Museum of Art 2008

April 2008 - March 2009

平成 20 年度 平塚市美術館年報 目次

I 作品・資料	3
(1) 収集	
(2) 展示	
(3) 貸与	
(4) 保存修復	
(5) その他	
II 展覧会	7
1 特集展 新収蔵品展	7
2 企画展 村田朋泰展—夢がしゃがんでいる—	8
3 特集展 夏の所蔵品展 四谷十三雄の造形世界	10
4 企画展 田島征三 絵本の大地・木の實の夢 豊かなる絵本原画の世界	11
5 特集展 湘南と作家 I 井上三綱 線描と文字の芸術	14
6 特集展 伊藤彬展—モノクロームによる現代の表現—	15
7 企画展 近代日本画の巨匠 速水御舟—新たなる魅力—	17
8 企画展 鳥海青児と三岸好太郎	21
9 特集展 冬の所蔵品展 山下菊二と菅野陽	25
10 特集展 新春の所蔵品展 現代作家の表現	26
11 特集展 ロビー展 湘南の彫刻	27
12 特集展 湘南と作家 II 没後10年 写真家濱谷浩の眼	28
III 教育普及	31
(1) 教育プログラム	
(2) 団体向け研修・体験プログラム	
(3) 職場体験受け入れ	
IV その他の事業	37
(1) 事業	
(2) 定例会議	
(3) 「平塚市美術館友の会」活動	
V 施設利用者等の統計	39
(1) 展覧会	
(2) 貸出施設	
VI 施設の管理	41
(1) 防災訓練・消防設備点検・設備修繕	
(2) 施設の貸出について	
(3) 組織・運営	
VII 沿革	43

I 作品・資料

(1) 収集

2008年12月13日(土)、美術品選定評価委員会で審議を行い、下表の通り寄贈作品71点、寄託作品15点を受け入れた。

●寄贈作品

No	作家名	作品名	制作年	サイズ(mm)	技法
1	伊藤彬	自画像	1959(昭34)年	750×575	彩色・紙
2	伊藤彬	二人の見たことのない世界	1963(昭38)年	1208×920	彩色・紙
3	伊藤彬	歌う女	1963(昭38)年	830×580	彩色・紙
4	伊藤彬	花嫁とピエロ	1963(昭38)年	1210×910	彩色・紙
5	伊藤彬	夢の入口	1963(昭38)年	800×640	彩色・紙
6	伊藤彬	少女と楽器	1963(昭38)年	1600×900	彩色・紙
7	伊藤彬	毬乗りの家族	1963(昭38)年	1600×900	彩色・紙
8	伊藤彬	歌う女	1963(昭38)年	1200×1500	彩色・紙
9	伊藤彬	人物	1963(昭38)年	1750×1130	彩色・紙
10	伊藤彬	家族	1964(昭39)年	1700×900	彩色・紙
11	伊藤彬	不安な群集	1964(昭39)年	920×1200	彩色・紙
12	伊藤彬	人間2	1964(昭39)年	1850×1250	彩色・紙
13	伊藤彬	人間3	1964(昭39)年	1800×1200	彩色・紙
14	伊藤彬	人間4	1964(昭39)年	1800×1200	彩色・紙
15	伊藤彬	建物と少女	1964(昭39)年	760×580	彩色・紙
16	伊藤彬	訪れをまつ	1965(昭40)年	1200×900	彩色・紙
17	伊藤彬	立停った二人	1965(昭40)年	1800×1200	彩色・紙
18	伊藤彬	私の好きなもの	1968(昭43)年	990×765	彩色・紙
19	伊藤彬	二人像	1968(昭43)年	1800×1200	彩色・紙
20	伊藤彬	祖母に聞いた話1	1969(昭44)年	1800×1200	彩色・紙
21	伊藤彬	甦る沼	1969(昭44)年	1800×1200	彩色・紙
22	伊藤彬	花粉	1974(昭49)年	727×530	彩色・紙
23	伊藤彬	草原	1974(昭49)年	1200×1700	彩色・紙
24	伊藤彬	影	1975(昭50)年	1603×1223	彩色・紙
25	伊藤彬	感性	1975(昭50)年	1600×12220	彩色・紙
26	伊藤彬	青幻記	1976(昭51)年	1760×2640	彩色・紙
27	伊藤彬	孤月	1977(昭52)年	1760×1760	彩色・紙
28	伊藤彬	我が子への絵物語り(月が降りてきた)	1978(昭53)年	1800×2300	彩色・紙
29	伊藤彬	別かれ	1978(昭53)年	1760×880	彩色・紙
30	伊藤彬	森を渡る風	1979(昭54)年	610×500	彩色・紙
31	伊藤彬	華のうてな	1979(昭54)年	1300×1620	彩色・紙
32	伊藤彬	優曇華の花びらが散ってゆく	1979(昭54)年	1500×1800	彩色・紙
33	伊藤彬	遠い地平	1980(昭55)年	1500×1800	彩色・紙
34	伊藤彬	夕人	1983(昭58)年	1750×2630	彩色・紙
35	伊藤彬	流れてゆく人	1984(昭59)年	176×2640	彩色・紙
36	伊藤彬	夢一条	1986(昭61)年	1760×1760	墨、彩色・紙
37	伊藤彬	約束	1987(昭62)年	1167×803	墨、彩色・紙
38	伊藤彬	星へ	1987(昭62)年	中1800×1200 左右1800×900	彩色・紙
39	伊藤彬	風姿水姿	1993(平5)年	1800×2400	墨、木炭・紙
40	伊藤彬	風声水声	1995(平7)年	1800×1200	彩色・紙
41	伊藤彬	夕オ	1996(平8)年	1800×1200	墨、木炭、彩色・紙
42	伊藤彬	春山水	1996(平8)年	1167×909	墨、木炭、彩色・紙
43	伊藤彬	山水-うつろふ1	1997(平9)年	2100×3600	墨、木炭・紙
44	伊藤彬	山水-うつろふ2	1997(平9)年	2100×3600	墨、木炭・紙
45	伊藤彬	火	1997(平9)年	1800×2400	墨、木炭・紙
46	伊藤彬	飛龍	1997(平9)年	1800×1200	墨、木炭・紙
47	伊藤彬	山水-行旅2	1998(平10)年	1820×1210	墨・紙
48	伊藤彬	山水-行旅3	1998(平10)年	1820×1210	墨・紙
49	伊藤彬	山水-行旅5	1998(平10)年	1820×1210	墨・紙

50	伊藤彬	山水-行旅6	1998(平10)年	1820×1210	墨・紙
51	伊藤彬	山月	1998(平10)年	1800×1200	墨、木炭・紙
52	伊藤彬	山水-帰山	1999(平11)年	1480×2110	墨・紙
53	伊藤彬	山水-如水	1999(平11)年	1480×2110	墨・紙
54	伊藤彬	山水-寒山	1999(平11)年	1480×2110	墨・紙
55	伊藤彬	山水-行水	1999(平11)年	1480×2110	墨・紙
56	伊藤彬	声明	1999(平11)年	2210×1760	墨・紙
57	伊藤彬	亡臆	2000(平12)年	1800×2400	墨・紙
58	伊藤彬	亡臆山水	2001(平13)年	1800×1200	墨・紙
59	上田臥牛	波涛	1961(昭36)年	2300×3840	彩色・紙
60	上田臥牛	古木	1981(昭56)年	1820×2275	彩色・紙
61	上田臥牛	早春	不詳	1690×1647	彩色・紙
62	武田倫子	Peep out	2008(平20)年	1120×1620	油彩・綿布
63	馬場松堂	潮騒	1968(昭43)年	1250×1550×250	竹
64	平野杏子	さんま	1952(昭27)年	728×910	油彩・キャンバス
65	平野杏子	触手のある曆	1962(昭37)年	805×1000	油彩・キャンバス
66	平野杏子	菩提樹の下のある日	1970(昭45)年	1303×1621	油彩・キャンバス
67	平野杏子	オトタチバナヒメ	2002(平14)年	各280×400	シルクスクリーン・紙
68	平野杏子	天の秘	2007(平19)年	1305×4860	油彩・キャンバス
69	藤塚松星	天の河	1989(平元)年	210×350×200	竹
70	本荘尅	歌舞伎図	1944(昭19)年	1350×4370	彩色・紙
71	本荘尅	菊	1945(昭20)年	240×335	油彩・ボード

●寄託作品

No	作家名	作品名	制作年	サイズ(mm)	技法
1	岩橋英遠	戸隠	1976(昭51)年	1480×2080	彩色・紙
2	上田臥牛	古木(梅)	1975(昭50)年	1790×1900	彩色・紙
3	上田臥牛	冬林	不詳	1816×2274	彩色・紙
4	近藤浩一路	嵐峽	不詳	1325×383	墨・紙
5	鈴木至夫	冬の佐渡	1991(平3)年	1770×2200	彩色・紙
6	鈴木至夫	奥能登冬涛	2006(平18)年	1725×2180	彩色・紙
7	鈴木至夫	北海冬陽	2007(平19)年	1725×8180	彩色・紙
8	中ザワヒデキ	脳内混色絵画 C2M1Y1#1	2007(平19)年	710×710	合成樹脂、アルミフレーム
9	速水御舟	松(下図)	1935(昭10)年	2030×562	木炭・紙
10	速水御舟	椿(写生10点)	1934(昭9)年頃	各291×414	彩色・紙
11	藤本能道	色絵鶏頭図 花壺	不詳	280×215	陶磁
12	本荘尅	寒山像	不詳	433×270	彩色・紙
13	本荘尅	柿本人麿像	不詳	372×505	彩色・紙
14	松尾敏男	海峽(涛)	1971(昭46)年頃	605×920	彩色・紙
15	山口蓬春	水田	1966(昭41)年	533×645	彩色・紙

●美術品寄贈作家への表彰式

2009年2月18日(水) 14:00～ 美術館応接室

湘南ゆかりの画家、伊藤彬氏と平野杏子氏の両名から計63点の作品が美術館に寄贈され、市長から感謝状と記念品が贈呈された。過去に伊藤氏は、「伊藤彬展 モノクロームによる現代の表現」(2008年)、平野氏は「幻想と幻視展」(2003年)、「平野杏子展」(2007年)を当館で開催。寄贈作品の一部は、新収蔵品展(2009年4月11日-5月25日)にて展示された。

※左から伊藤彬氏、大藏平塚市長、平野杏子氏



(2) 展示

平成20年度の開催展覧会において、下表の通り作品を展示した。

No	種別	展覧会名	総出品点数	うち所蔵・寄託	うち借用
1	特集展	新収蔵品展	29	29	0
2	企画展	村田朋泰展 夢がしゃがんでいる	映像・インスタレーション一式のため集計なし		
3	特集展	夏の所蔵品展 四谷十三雄の造形世界	41	40	1
4	企画展	田島征三展 絵本の大地・木の実の夢 豊かなる絵本原画の世界	68	0	68
5	特集展	湘南と作家Ⅰ 井上三綱 線描と文字の芸術	21	0	21
6	特集展	伊藤彬展 モノクロームによる現代の表現	46	26	20
7	企画展	近代日本画の巨匠 速水御舟 新たなる魅力	133	0	133
8	企画展	鳥海青児と三岸好太郎	152	73	79
9	特集展	冬の所蔵品展 山下菊二と菅野陽	45	45	0
10	特集展	新春の所蔵品展 現代作家の表現	26	26	0
11	特集展	ロビー展 湘南の彫刻	20	16	4
12	特集展	湘南と作家Ⅱ 没後10年 写真家濱谷浩の眼	70	70	0
計			651点	325点	326点

(3) 貸与

開催される展覧会、事業の内容や意義、開催場所の設備・環境、作品の状態や当館での利用予定などを考慮し、下表の通り、9団体に計123点を貸出した。

●作品貸与

No	貸出先	展覧会名、会期	点数	作家・作品名
1	練馬区立美術館	木のぬくもりとあそびの中から生まれた形たち展 8/2(土)～31(日)	1	舟越桂《羽の門》(寄託作品)
2	北海道立三岸好太郎美術館	鳥海青児と三岸好太郎 8/29(金)～11/7(金)	44	鳥海青児42点、森田勝2点
3	茅ヶ崎市美術館	S氏のコレクション—日本画の名品を中心に—9/14(日)～11/9(日)	39	北澤映月《女人卍》他12点/寄託作品26点
4	米沢市上杉博物館、山形美術館	愛情の画家 椿貞雄展 9/27(土)～11/30(日)、12/18(木)～2/1(日)	3	椿貞雄《鶴沼風景》《菊子座像》《朝子像》
5	東京国立近代美術館	プリズム・沖縄 1872-2008 10/31(金)～12/21(日)	3	鳥海青児《沖縄風景》《首里》《沖縄風景》
6	松濤美術館	素朴美の系譜 12/9(火)～2009/1/25(日)	5	萬鉄五郎《宙腰の人》《茅ヶ崎風景》《茅ヶ崎風景》 中川一政《薔薇》 岸田劉生《永日小品》
7	富山県水墨美術館	現代の水墨画 2009 水墨表現の現在地点 2009/1/30(金)～3/22(日)	4	伊藤彬《山水-行旅 2》《山水-行旅 3》他2点
8	下関市立美術館	香月泰男と1940-50年代の絵画 2009/2/5(木)～3/22(日)	2	鳥海青児《ピカドール》《壁の修理》
9	茨城県近代美術館	安田靫彦展 2009/2/7(土)～3/22(日)	22	安田靫彦《宇治合戦図》他21点
計			123点	

●資料貸与

貸出先	事業名・開催日	点数	資料名
横浜美術館	桜の贈り物—草木で染める横浜の色 4月5日(土)～5月30日(金)	一式	染色用道具一式
三井記念美術館	日本画の絵の具で「夏」を描こう～岩絵の具づくりに挑戦!～ 8月3日(日)、17日(日)	4	日本画顔料焼成表(2点)、牡蠣貝殻(2点)
計		—	

(4) 保存修復

屋外設置の彫刻7点について酸性雨水による腐食防止処置を、絵画作品2点について下表のとおり保存修復処置をほどこした。

作家	作品	材質	点数	処置
ホセ・デ・リヴェラ	コンストラクション#115	ステンレススチール	1	本体クリーニングと回転部メカニズムの保守点検
保田春彦	赤錆の幕舎	鉄	1	グラウンドライン設置面の腐蝕防止メンテナンス
保田春彦	地を這うかたち	ブロンズ	1	欠落部分の溶接
佐藤忠良	緑	ブロンズ	1	洗浄後、ワックス塗布
舟越保武	海の顕彰碑―渚―	ブロンズ	1	洗浄後、ワックス塗布
柳原義達	座る女	ブロンズ	1	洗浄後、ワックス塗布
淀井敏夫	海	ブロンズ	1	洗浄後、ワックス塗布
鳥海青児	壁の修理/伊賀瓶子とメロン	油彩	2	—

●収蔵庫虫害調査

日時他：2008年7月24日(木)～8月5日(火)／担当：勝山滋(当館学芸員)

場 所：館内3カ所(収蔵庫Ⅰ、収蔵庫Ⅱ、特別収蔵庫)

(財)文化財虫害研究所による。調査は虫害を主として、目視調査とトラップによる調査を併せて実施。カビ調査は目視のみで行った。なおチャタテムシ1匹、タバコシバンムシ3匹が捕獲され、同所の助言により収蔵庫内湿度を2%下げ、60%を上まわらないように設定した。

※なお2008年12月、開館以来の虫害監視業務をまとめた資料(山野勝次・小峰幸夫「平塚市美術館における生物被害対策」)が『文化財の虫菌害』56号((財)文化財虫害研究所)において発表、出版された。

(5) その他

下記のとおり、作品に対する作業を行った。

●作品の写真撮影 76点

内訳：伊藤彬(不安な群集、少女と楽器、毬乗りの家族、人間(2)、人間3、祖母に聞いた話1、影、感性、夕人、夢一糸、約束、風姿水姿、山水-うつろふ1、山水-うつろふ2、火、山水-行旅2、山水-行旅3、山水-行旅5、山水-行旅6、山水-帰山、山水-如水、山水-寒山、山水-行水、亡臆山水、人間4、別かれ、春山水、夕才、山月、飛龍、人物、家族、甦る沼、草原、声明、風声水声、遠い地平、亡臆、孤月、流れてゆく人、流れてゆく人)

上田臥牛(波涛(右)、波涛(左)、古木、早春)、武田倫子(Peep Out)、馬場松堂(潮)、平野杏子(さんま、触手のある暦、菩提樹の下のある日、天の秘(右)、天の秘(中央)、天の秘(左)、オトタチバナヒメ(7枚組))、藤塚松星(天の河)、本莊尅(歌舞伎図(右)、歌舞伎図(左)、菊)、菅野 陽(十二支(12枚組))

●デジタル画像作成 440点

平成16年度から20年度までの5カ年計画で主要収蔵品をデジタル画像化。5年目の20年度は二見利節のデッサン作品等を中心とした。

II 展覧会

■ 1 新収蔵品展

会期：2008年3月28日(金)～5月25日(日) 開催日数52日



堀文子 《トスカーナの花野》1990年

種別 特集展
 主催 平塚市美術館
 観覧料 一般200(140)円、高大生100(70)円
 ※各減免を除く
 入場者数 5,987人
 担当 江口恒明(当館学芸員)

●内容

平塚市美術館では開館以来「湘南の美術・光」をテーマに、近現代の洋画・日本画・彫刻を主に収集をしてきました。2007年度は比較的新しい時代の優れた作品の寄贈・寄託を受け、本展ではそれらの作品および当館での初展示となる作品29点を紹介しました。日本画では堀文子(ホリフミコ)、佐藤晨(サトウアキラ)、内田あぐり(ウチノアグリ)、斉藤典彦(サイトノリヒコ)など湘南の地で制作し活躍中の作家の作品を中心に展示を行い、洋画では、古典的な技法を用いた静謐な作品で知られる有元利夫(アリモトシウ)の代表作を含む作品、また木彫の人物表現を追求し続ける舟越桂(フナコシケイ)の彫刻も展示し、新しい表現を模索する作家たちを紹介しました。

●出品リスト

No	作家名	生没年	作品名	制作年	サイズ(mm)	技法	所蔵先
1	猪熊佳子	1958-	神話の国から	2005年	2200×4790	彩色・紙	当館
2	牛島憲之	1900-97	水郷	1943-50年 代前後	324×405	油彩・キャンバス	当館
3	内田あぐり	1949-	白い着物の裸婦	1982年	990×642	彩色・紙	当館
4	北澤明子	1966-	鷺汀より	1993年	2350×1790	彩色・紙	当館
5	佐々木豊	1935-	裸婦と骨	1985年	1303×1621	油彩・キャンバス	当館
6	斉藤典彦	1957-	Water Land-7	1994年	1835×2860	彩色・紙	当館
7	有元利夫	1946-85	青い婦人	1974年	379×455	油彩・キャンバス	当館寄託
8	有元利夫	1946-85	追憶	1976年	333×530	油彩・キャンバス	当館寄託
9	有元利夫	1946-85	部屋の夕暮	1979年	455×530	油彩・キャンバス	当館寄託
10	有元利夫	1946-85	平均律	1980年	455×379	油彩・キャンバス	当館寄託
11	有元利夫	1946-85	空の窓	1980年	530×455	油彩・キャンバス	当館寄託
12	有元利夫	1946-85	夜のカーテン	1980年	909×727	油彩・キャンバス	当館寄託
13	有元利夫	1946-85	幕間の再会	1981年	455×379	油彩・キャンバス	当館寄託
14	有元利夫	1946-85	幕あげ	1983年	530×455	油彩・キャンバス	当館寄託
15	大河内正夫	1920-	湯布院	1988年頃	650×910	彩色・紙	当館寄託
16	小山敬三	1897-87	晩秋飛瀑	1977年頃	1191×745	彩色・紙	当館
17	斉藤典彦	1957-	MORI O OMOU-3	1991年	1168×1168	彩色・紙、木	当館寄託
18	斉藤典彦	1957-	かのみず	2001年	2800×1940	彩色・絹	当館寄託
19	斉藤典彦	1957-	in her garden	2006年	1940×1303	彩色・紙	当館寄託
20	佐藤晨	1935-	幻月	1998年	1620×2270	彩色・紙	当館寄託
21	福井江太郎	1969-	集	1996年	1800×7200	彩色・紙	当館寄託
22	舟越桂	1951-	羽の門	2000年	940×540×300	木	当館寄託
23	保田井智之	1956-	海に落ちる山 I	1999年	1350×400×1250	木、ブロンズ	当館寄託
24	堀文子	1918-	トスカーナの花野	1990年	803×1165	彩色・紙	当館寄託
25	内田あぐり	1949-	吊された男 #01K	2001年	2400×4800	彩色・紙	当館
26	飯室 哲也	1947-	水平・垂直	1996年	203×287	木版、手彩色・紙	当館
27	稲 憲一郎	1947-	Oval	1996年	295×210	木版・紙	当館
28	稲 憲一郎	1947-	Flow	2000年	212×297	木版・紙	当館
29	堀川 紀夫	1946-	EDGE' 97-OCT-1	1997年	250×190	アルミ版、腐食・紙	当館

■ 2 村田朋泰展—夢がしゃがんでい—

会期：2008年4月12日(土)～5月25日(日) 開催日数 39日

種別	企画展
主催	平塚市美術館／読売新聞東京本社／美術館連絡協議会
協賛	ライオン／清水建設／大日本印刷／神奈川中央交通株式会社
機材協力	キヤノンマーケティングジャパン(株)／日本ビクター株式会社
協力	ハタアート／デザインアンダーグラウンド／荒川区 消忠之
助成	アサヒビール芸術文化財団／ニッポ電機株式会社／認定 社団法人 企業メセナ協議会
観覧料	一般 700円(560円)、高大生 500円(400円) ※各減免をのぞく
入場者数	10,141人
担当	勝山滋 (当館学芸員)



リーフレット



展覧会図録



会場風景

●内容

村田朋泰 (1974-) は、東京藝術大学の在学中に制作した立体アニメーション『睡蓮の人』で文化庁メディア芸術祭優秀賞を受賞、その後も数々のアニメーションフェスティバルで受賞を果たしました。近年では国民的ロックバンド Mr.Children のプロモーションビデオを担当して多くの人に知られる一方、立体アニメーションのみならず、独特な意匠を取り込んだ空間芸術創造へとその活動が展開しています。

この展覧会では美術館の受付から展示室全体を作り込み、「夢の観光地 三ノ函(みのはこ)半島一泊ツアー」をテーマとした空間に変容させました。来館者は、音と映像や展示を通して、作家のイメージする架空の一泊旅行を体験することになります。

展示室内の各所には、黒服の男をかたどった人形が置かれ、その男と共に来館者は旅のシミュレーションをしています。かつて実際に使われていたジュークボックスを改造し、架空の観光地「三ノ函半島」の60名所のアニメーションが見られる『百色旅館ジュークボックス』、またテーマホールには、なつかしのゲームが楽しめるゲームコーナーやノスタルジックな売店(実際にグッズ販売)などが設置され、村田がもつ独特の哀愁や、ロマンチズム、倦怠感、喪失感、空気や匂いといったものを感じとれる作品世界が、そこに出現しました。

●三ノ函映画館 上映リスト

ミュージアムホールでは「三ノ函映画館」と銘打って、村田のライフワークである『路』シリーズの新作『檸檬の路』、栄光ゼミナールとコラボレーションで制作されている連作立体アニメーション『家族デッキ』、その他おなじみ『さかだちくん』シリーズ最新作、さらに旧作の中から選りすぐりの作品を上映しました。

プログラムⅠ ①檸檬の路(13分05秒) ②朱の路(14分) ③家族デッキ1(4分25秒) ④睡蓮の人(16分)
⑤家族デッキ2(5分17秒) ⑥さかだちくんひたすらオリンピック(3分30秒)

プログラムⅡ ①檸檬の路(13分05秒) ②tomorrow(3分08秒) ③さかだちくんひたすら走る!(4分)
④オモヒデ(4分09秒) ⑤家族デッキ3(4分30秒) ⑥さかだちくんひたすら喰う!(2分27秒)
⑦斜陽(3分21秒) ⑧家族デッキ4(6分08秒) ⑨さかだちくんひたすら怪奇現象(4分12秒)
⑩藍の路(13分30秒)

●関連事業

事業内容	日時、場所、講師等	参加者
展示作業公開ツアー	4月4日(金)、5日(土) 各回14:00-15:00/展示室 解説: 勝山滋(当館学芸員)	20人
百色旅館オープン 記念式典	4月12日(土) 9:30-/美術館入口 ※先着100名に記念グッズ進呈。	100人
三ノ函映画館	会期中の9:30-16:30/ミュージアムホールにて上映 ※『路シリーズ』最新作(檸檬の路)他を上映。トークショー時は除く。	20人
三ノ函半島周遊ツアー	4月19日(土) 14:00-15:00/展示室 添乗員: 勝山滋(当館学芸員)	40人
アニメであそぼー子どものための パラパラアニメ体験講座	4月26日(土) 10:00-16:30/アトリエ 講師: 村田朋泰氏	30人
トークショー(対談)	4月27日(日) 14:00-15:30 中里和人氏(写真家)×村田朋泰氏 5月11日(日) 14:00-15:30 山下敦弘氏(映画監督)×村田朋泰氏 5月17日(土) 15:00-16:30 諏訪哲史氏(作家)×村田朋泰氏 ミュージアムホール	80人 150人 150人
団体むけレクチャー	5月15日(木) 公民館(崇善、松原、富士見) 27人 5月22日(木) 公民館(岡崎、神田、城島、他7館) 37人	計64人

●展覧会図録『村田朋泰展 夢がしゃがんでいる』

発行年月	2008年4月
価格	1,500円
体裁	サイズ:27.0cm×22.5cm 頁数:80頁
テキスト	松浦寿輝 「静謐な時間の流れる小宇宙」 宮迫千鶴 「今と過去を漂う想い」 湊忠之 「巨大化したへんな人」 保坂和志 「パペットアニメという思考」 高見亮子 「「彼」の近くにいる」 高橋丁未子 「妖精の贈物」 印南直樹 「壁に一羽の鶏の絵がある」 青木淳 「高田家の建築学的謎について」 水谷篤司 「村田さんの手」 末井昭 「「ルリカケス」ココロを取り戻す旅」 渡邊かな子 「夢の密度」 竹本清香 「「わからない」のに「おもしろい」、村田朋泰。」 杉田鉄男 「循環する創造エネルギー」 勝山滋 「村田朋泰が描く夢」
図版	参考図版70点 他
資料等	村田朋泰文献目録・年譜
会場写真	湊忠之
図録デザイン	布川愛子
編集協力	高橋丁未子(ヴァリエテ本六)
校閲	土田由佳
印刷	印象社
発行	平塚市美術館

●主な紹介記事・番組

月日	紹介内容
3月19日(水)	加藤木信夫「立体アニメで夢体験 ミスチルPV手掛けた村田さん 来月12日から平塚で企画展」東京新聞
4月	勝山滋「《オモヒデ》—村田朋泰」青淵709号
4月10日(木)	「ノスタルジーとユーモア溢れるパノラマワールド 気鋭の映像作家・村田朋泰が大規模な個展を開催！」ウーマンエキサイト・カルチャーピックアップ
4月12日(土)	「「夢の観光地」1泊旅行 平塚で村田朋泰企画展」読売新聞
4月23日(水)	「会場を包む 夢の香り 平塚市美術館「村田朋泰展 夢がしゃがんでいる」」朝日新聞
4月24日(木)	「人物点描 アニメ作家 村田朋泰さん 身近さ感じる架空世界」山陰中央新報
4月25日(金)	「村田朋泰 「気配、匂いをフィジカルに体験してほしい」」Art-icle 8号
4月28日(月)	「架空の名所を観光 村田朋泰展」読売新聞
5月	「村田朋泰が見せる夢の世界 村田朋泰展—夢がしゃがんでいる」ブレーン48巻5号
5月1日(木)	「人物点描 アニメ作家 村田朋泰さん 身近な架空世界現出」愛媛新聞

5月1日(木)	勝山滋「夢がしゃがんでいる(上)「檸檬の路」職人的な手わざの世界」 読売新聞
5月4日(日)	アートシーン NHK新日曜美術館
5月7日(水)	田中三蔵「村田朋泰展 感傷・懐古に浸った孤独な世界」 朝日新聞
5月12日(月)	尹貴淑「村田朋泰展 忘れたもの拾う旅 架空の温泉郷巡りを体験」 神奈川新聞
5月15日(木)	「作品は僕の重要な表現 村田朋泰さん」 タウンニュース No1048
5月15日(木)	高野清見「ベタな「昭和」と現代性」 読売新聞

■ 3 夏の所蔵品展-四谷十三雄の造形世界-

会期：2008年5月31日(土)～7月21日(月・祝) 開催日数 45日



四谷十三雄《静物》当館蔵 1958-63年

種別	特集展
主催	平塚市美術館
観覧料	一般 200(140)円、高大生 100(70)円 ※各減免を除く
入場者数	2,229人
担当	端山聡子(当館学芸員)

●内容

四谷十三雄(ヨヤトミチ・1938-63)は横浜市生まれ。1958年から制作活動に入りますが、1963年、交通事故により、初の個展開催を目前にして25歳の若さで亡くなりました。夏の所蔵品展では、この夭折の作家の作品を中心に、その造形世界を展覧します。静物、人物、コンポジションの3つのシリーズを紹介しました。

このほか所蔵作品の中から、佐藤多持(サトウタツ・1919-2004)の水芭蕉をテーマにした油彩画と日本画、木村一生(キムライシヨウ・1932-)の大作などを展示しました。

●出品リスト

No	作家名	作品名	制作年	材質	所蔵先
1	四谷 十三雄	自画像	1958-63年	インク、木炭、鉛筆・紙	平園賢一氏
2	四谷 十三雄	自画像	1958-63年	インク・紙	当館
3	四谷 十三雄	顔	1958-63年	鉛筆・紙	当館
4	四谷 十三雄	静物	1958-63年	油彩・キャンバス	当館
5	四谷 十三雄	静物(壺)	1958-63年	油彩・キャンバス	当館
6	四谷 十三雄	人物	1958-63年	油彩・キャンバス	当館
7	四谷 十三雄	人物	1958-63年	油彩・キャンバス	当館
8	四谷 十三雄	人物	1958-63年	油彩・キャンバス	当館
9	四谷 十三雄	人物	1958-63年	油彩・キャンバス	当館
10	四谷 十三雄	コンポジション	1958-63年	油彩・キャンバス	当館
11	四谷 十三雄	コンポジション	1958-63年	油彩・キャンバス	当館
12	四谷 十三雄	コンポジション	1958-63年	油彩・キャンバス	当館
13	四谷 十三雄	コンポジション	1958-63年	油彩・キャンバス	当館
14	四谷 十三雄	コンポジション	1958-63年	鉛筆、パステル・紙	当館
15	四谷 十三雄	コンポジション	1958-63年	鉛筆、水彩・紙	当館
16	四谷 十三雄	コンポジション	1958-63年	鉛筆、パステル・紙	当館
17	四谷 十三雄	コンポジション	1958-63年	パステル・紙	当館
18	四谷 十三雄	コンポジション(二人)	1958-63年	鉛筆、パステル・紙	当館
19	四谷 十三雄	コンポジション	1958-63年	鉛筆、パステル・紙	当館
20	四谷 十三雄	コンポジション	1958-63年	鉛筆、水彩・紙	当館
21	四谷 十三雄	コンポジション	1958-63年	鉛筆、水彩・紙	当館
22	四谷 十三雄	静物(壺と水差のある)	1958-63年	鉛筆、パステル、インク・紙	当館
23	四谷 十三雄	静物(壺と水差のある)	1958-63年	鉛筆、パステル、インク・紙	当館
24	四谷 十三雄	静物(壺と水差のある)	1958-63年	パステル、インク・紙	当館
25	四谷 十三雄	静物(壺)	1958-63年	鉛筆・紙	当館
26	四谷 十三雄	静物(壺)	1958-63年	鉛筆、パステル・紙	当館
27	四谷 十三雄	静物(壺と水差)	1958-63年	鉛筆・紙	当館
28	四谷 十三雄	静物(壺と水差)	1958-63年	鉛筆・紙	当館
29	四谷 十三雄	静物(壺と水差)	1958-63年	鉛筆・紙	当館
30	四谷 十三雄	うづくまる人	1958-63年	パステル・紙	当館
31	四谷 十三雄	二人裸婦	1958-63年	鉛筆、パステル、インク・紙	当館
32	四谷 十三雄	人物(後向き)	1958-63年	鉛筆、パステル・紙	当館

33	四谷 十三雄	座る人	1958-63 年	鉛筆、パステル・紙	当館
34	四谷 十三雄	座る人	1958-63 年	鉛筆、パステル・紙	当館
35	四谷 十三雄	座る人	1958-63 年	鉛筆、パステル・紙	当館
36	四谷 十三雄	立つ人	1958-63 年	鉛筆、パステル・紙	当館
37	木村 一生	Libido 67	1972 年	油彩・キャンバス	当館
38	木村 一生	蜩	1996 年	油彩・キャンバス	当館
39	佐藤 多持	水芭蕉	1954 年	油彩・キャンバス	当館
40	佐藤 多持	水芭蕉に関する作品 3	1960 年	墨、彩色、箔・紙	当館
41	佐藤 多持	黄 85	1988 年	墨、金、銀・紙	当館

●関連事業

事業名	日時、場所、講師等	参加者数
団体むけレクチャー	6月18日(水) 国際学園星槎中学校 89人 6月20日(金) カンザス大学 20人/平塚市立南原小学校 35人 7月13日(日) ボーイスカウト平塚第3回カブ隊 20人	計 164人

●主な紹介記事・番組

月日	紹介内容
5月29日(木)	「季節を感じる作品を一堂に 夏の所蔵品展－四谷十三雄の造形世界－」タウンニュース No1050
6月1日(日)	「夏の始まり絵で感じて 平塚市美術館 故四谷さんらの作品展」東京新聞
6月5日(木)	「力強いタッチ 四谷十三雄展」読売新聞

■ 4 田島征三展 絵本の大地・木の葉の夢 豊かなる絵本原画の世界

会期：2008年7月19日(土)～8月31日(日) 開催日数 38日

種別	企画展
主催	平塚市美術館
協賛	神奈川県中央交通株式会社/飛騨絵本美術館・ポレポレハウス
観覧料	一般 400(320)円、高大生 200(160)円 ※各減免をのぞく
入場者数	9,518人
担当	土方明司(当館館長代理)



リーフレット



ワークシート



会場でのギャラリートーク

●内容

日本を代表する絵本作家である田島征三(タシマセツウ・1940-)の貴重な原画を紹介する展覧会です。

田島征三は、大阪堺市に生まれ、幼少期に父の郷里である高知県の自然豊かな山村で育ちました。この幼少期の体験が後の田島作品のバックボーンとなります。高校を卒業後多摩美術大学図案科に進学、在学中に手刷り絵本『しばてん』を

制作、その斬新な表現に一部の識者の高い評価を受けます。64年『ふるやのもり』、69年『ちからたろう』（第2回世界絵本原画展金のりんご賞受賞）、74年『ふきまんぶく』（第5回講談社出版文化賞）等、着実に自己の表現を深め絵本作家の第一人者として評価されます。69年からは東京西多摩郡日の出町で自給自足の生活を実践、環境問題にも深く関わっていきます。さらに、実力派画家の集団人人（ひとひと）展に油彩画を出品し画家としても注目を集めました。こうした多彩な活躍が絵本表現にさらなる広がりをもたらし、88年『とべバッタ』（第11回絵本につぼん賞）、そのほかポローニャ国際児童図書展で受賞、小学館絵画賞、年鑑イラストレーション作家賞受賞と続きます。98年から伊東市に移住、木の実や流木によるオブジェ、インスタレーションも手がけ展覧会に発表しました。絵本をはじめどの作品からも伝わる「生命礼賛」の強いメッセージは多くの人々に強く支持されています。

本展では、代表的な絵本の原画約230点に加え、油彩画なども展示し、その豊かな作品世界を紹介しました。

●出品リスト

No	作品名	制作年	材質・技法	所蔵先
◎絵本原画作品				
1	ちからたろう	1967年	泥絵具、膠・紙・板	
2	しばてん	1971年	リトグラフ・紙	
3	猫は生きている	1973年	泥絵具、水性ボンド・紙	
4	ふきまんぶく	1971-73年	泥絵具、水性ボンド・紙	
5	ふきまんぶく（未使用作品）	1971-73年	泥絵具、水性ボンド・紙	
6	しずかおめでとう やぎのしずかー3	1975年	泥絵具、水性ボンド・紙	
7	ほら いしころが おっこちたよ ね、わすれようよ	1975-80年	リトグラフ・紙	
8	ほら いしころが おっこちたよ ね、わすれようよ（未使用作品）	1975-80年	リトグラフ・紙	
9	くさむら	1982年	墨	
10	とべバッタ	1985-88年	泥絵具、水性ボンド・紙	
11	いろいろあってもあるきつづける	1999年	泥絵具、アクリル絵具、カラーコピー、コラージュ・紙	
12	はたけのカーニバル	2002年	アクリル絵具・紙	
13	しらないまち	2006年	アクリル絵具等・紙	刈谷市美術館
14	ザ・ボーン	2007年	泥絵具、アクリル絵具・紙	
◎その他の作品				
15	ポスター「土佐」	1960年	印刷・紙	
16	土佐観光のためのイラストレーション 1	1960年	泥絵具・紙	
17	土佐観光のためのイラストレーション 2	1960年	泥絵具・紙	
18	土佐観光のためのイラストレーション 3	1960年	泥絵具・紙	
19	土佐観光のためのイラストレーション 4	1960年	泥絵具・紙	
20	学生時代作品 1	1961年	泥絵具、膠・馬糞紙	
21	学生時代作品 2	1961年	泥絵具、膠・馬糞紙	
22	学生時代作品 3	1961年	泥絵具、膠・馬糞紙	
23	学生時代作品 4	1961年	泥絵具、膠・馬糞紙	
24	学生時代作品 5	1961年	泥絵具、膠・馬糞紙	
25	学生時代作品 6	1961年	泥絵具、膠・馬糞紙	
26	手刷り私家版『しばてん』	1962年	ジンク版・紙	
27	あわおどり	1962年	松煙、胡粉、膠・紙	
28	よみのくに	1969年	泥絵具、膠・ベニヤ	
29	山椒魚	1970年	松煙、胡粉、膠・紙	
30	桜の森の満開の下	1971年	松煙、胡粉、膠・紙	
31	玉の内絵図	1976年	松煙、胡粉、膠・紙	
32	赤い山羊	1976年	油彩・キャンバス	
33	春の仕事	1977年	油彩・キャンバス	
34	のらぼうにいるものたち	1979年	泥絵具・紙・合板	
35	畑の神とコールラヴィの花粉	1979年	泥絵具・紙・合板	
36	大地の春	1980年	泥絵具・紙	
37	つぶされたバッタ	1982年	泥絵具、色鉛筆・紙	
38	魂のシリーズ 1	1982年	水干、色鉛筆・紙	
39	魂のシリーズ 2	1982年	水干、色鉛筆・紙	
40	魂のシリーズ 3	1982年	水干、色鉛筆・紙	

41	魂のシリーズ 4	1982年	水干、色鉛筆・紙	
42	自転車の男	1983年	泥絵具・合板	
43	傷心のバッタ	1985年	泥絵具・キャンバス	
44	さかだちをしてあるくつるな	1985年	泥絵具・キャンバス	
45	腐敗して骨が見える獣	1986年	泥絵具、油彩、オイルスティック・紙	
46	かまきり	1987年	水干・和紙	
47	くさむらにいる人	2006年	泥絵具、草・手漉き和紙	
48	揺れる大地	2006年	泥絵具・紙	
49	あさっての踊り	2007年	泥絵具、膠・紙	
50	密林の踊り	2007年	泥絵具、膠・紙	
51	魔境に開いた27の窓	2007年	泥絵具、膠・紙	
52	こんにちは 伊豆の海から来ました	2008年	泥絵具、膠・流木	

◎木の実のカラーージュ作品

53	ガオ	1999-2001年	アクリル絵具、シロダモの実、ノブドウ、マキなどの実・プリント印画紙	
54	モクレンおじさん	2001-04年	モクレン、ヤマザクラの実・プリント印画紙	
55	木の葉ズキンのおでかけ	1995年	落葉、クルミ、枝、シュロナワ	
56	役人の発言	1998年	コナラのハカマ、膠・手漉き和紙	
57	あきらめない男	1998年	ハナショウブの実、膠・手漉き和紙	
58	たおれる少年	1998年	ヤマザクラの実、膠・手漉き和紙	
59	消えゆく獣	2000年	モクレンの実、膠、柿渋・手漉き和紙	
60	落下する二つの魂	2000年	ヤマザクラの実、膠、柿渋・手漉き和紙	
61	地上の星座	2002年	コナラのハカマ、膠、柿渋・手漉き和紙	
62	イガグリモンスター	2002年	栗のイガ、針金、木	
63	爆発する男	2003年	モクレンの実・手漉き和紙	
64	集落のおきて	2004年	タイサンボクの実、ホウの実、膠、柿渋・手のべ和紙	
65	椿姫	2004年	ツバキの花びら	
66	流れるいのちの河	2005-07年	ヤマザクラの実・手漉き和紙	
67	吠える獣	2008年	モクレンの実、柿渋、膠・手漉き和紙	
68	吠える獣 (下絵)	2008年	泥絵具、膠・キャンバス	

●関連事業

事業名	日時、場所、講師等	参加者
『ふきまんぶく』上映会&トーク&三味線ミニライブ	7月19日(土) 14:00- / ミュージアムホール / 出演: 田島蒞氏 ※展覧会オープニングイベントとして開催。	160人
木の実でアートボックス	7月20日(日)、8月10日(日) 各回14:00-15:00 / アトリエ 講師: 田島征三氏	44人
田島征三氏によるギャラリートーク	7月20日(日)、8月10日(日)、8月16日(土) 各回15:15-15:45 8月17日(日)、8月24日(日) 各回13:30-14:00 展示室	計305人
作ってあそぼう わくわくランド	8月2日(土)、8月9日(土) 各回13:30-15:00 / アトリエ 講師: 平塚市保育士	77人
田島征三講演会 + おおたか静流ミニコンサート	8月14日(木) 13:30-15:00 / 平塚市中央公民館 主催: 平塚市社会教育課 出演: 田島征三氏、おおたか静流氏(無国籍、ノンジャンル)のシンガー&ボイスアーティスト)	650人
団体むけレクチャー	7月23日(水) NHK文化センター横浜教室 7月29日(火) 伊勢原市小学校教育研究会図工部 7月31日(木) 公民館(大野、八幡、四之宮、中原、松ヶ丘、大原、南原) 8月14日(木) 公民館(崇善、松原) 8月29日(金) 平塚市適応指導教室	計113人

●主な紹介記事・番組

月日	紹介内容
7月12日(土)	「夏休み、家族で楽しむ展覧会 魅力あふれる絵本と児童書の世界へ」 リビング湘南
7月17日(木)	「絵本作家・田島征三の世界 美術館夏休み特別企画」 タウンニュース No1057
7月18日(金)	「田島征三展 絵本の大地・木の実の夢 夏休み特別企画」 湘南ホームジャーナル No1326
7月19日(土)	小林一登「環境保全「吠える獣」木の実使った大作登場」 神奈川新聞
7月19日(土)	渡辺明博「モクレンの実 3万粒アート 平塚できょうから田島征三さん展」 毎日新聞
7月29日(火)	「平塚で絵本原画展」 読売新聞
8月10日(日)	NHK新日曜美術館・アートシーン
8月15日(金)	小林一登「読書に親しむ環境づくりを 平塚・絵本作家が講演」 神奈川新聞

■ 5 湘南と作家 I 井上三綱 線描と文字の芸術

会期 2008年7月25日(金)～9月28日(日) 開催日数 57日



井上三綱《水辺の馬》 当館蔵

種別 特集展
 主催 平塚市美術館
 観覧料 一般 200(140)円、高大生 100(70)円
 ※各減免を除く
 入場者数 5,990人
 担当 端山聡子(当館学芸員)

●内容

井上三綱(イノカサノウ・1899-1981)は油彩画のみならず、そこに日本画材を採り入れ、屏風も描き、書や彫刻も手がけるなど、ジャンルを超えた絵画表現を生み出した画家です。

福岡県筑後市の竈門神社宝満宮神主の家に生まれ、小倉師範学校卒業後、小学校教諭などを勤めます。1923年、関東大震災で被災後、郷里の坂本繁二郎を訪ね指導を仰ぎ、生涯にわたって大きな影響を受けます。

26年第7回帝展に《牛》が初入選し、50年、第4回美術団体連合展に《しゃがみかけた牛》を出品、彫刻家イサム・ノグチや美術評論家エリゼ・グリリーに高く評価されました。61年から無所属となり、小田原市入生田で活動します。戦後はキャンバスや紙に胡粉を塗り、弁柄や墨、岩絵具で描き、ガラスで絵肌の表面を掻き落とすという新しい技法を用い、とくに牛や書、音をテーマにした屏風群に創造性を示しました。今回は所蔵作品から線描を中心に、画中に文字を取り込んだ作品まで21点を紹介しました。

●出品リスト

No	作品名	制作年	技法	所蔵先
1	自画像	不詳	油彩・キャンバス	当館
2	麦鳥	不詳	インク・紙	当館
3	畑のある風景	不詳	インク・紙	当館
4	箱根紅葉	1941年	墨、彩色・キャンバス	当館
5	鷺	1951年	墨、彩色・キャンバス	当館
6	馬を御す	1950年	墨、彩色・キャンバス	当館
7	駆けだした牛	1956年	油彩、墨、弁柄、胡粉・キャンバス	当館
8	習作	1956年	墨、彩色・ボード	当館
9	働く人	1958年	墨、石膏・紙	当館
10	たね	1975年	墨、彩色、紙片・紙	当館
11	水辺の馬	1951年	墨、彩色・キャンバス	当館
12	乳牛三頭	1951年	墨、彩色・キャンバス	当館
13	女達	1953年頃	油彩、墨、弁柄、胡粉・ボード	当館
14	まり遊び	1957年頃	油彩、墨、弁柄、胡粉・ボード	当館
15	はたおり	1956年	油彩、墨、弁柄、胡粉・キャンバス	当館
16	牛の親子	不詳	墨、弁柄、胡粉、紙・板	当館
17	王と妃	1961年	混合技法・紙	当館
18	牛小屋	1954年頃	墨、彩色・キャンバス	当館
19	風の中の牛	1966年	墨、紙片・紙	当館
20	泰山石刻	1971年頃	彩色、コラージュ・紙	当館
21	泰山石刻	1972年	墨、彩色、紙片・紙	当館

●主な紹介記事・番組

月日	紹介内容
8月10日(日)	「井上三綱作品展 平塚で来月まで」 読売新聞
9月15日(月)	「特色ある線描を特集」 神奈川新聞

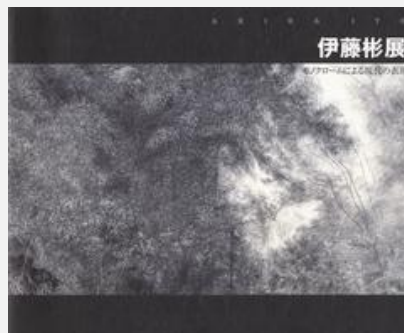
■ 6 伊藤彬展—モノクロームによる現代の表現

会期：2008年9月27日(土)～11月9日(日) 開催日数 38日

種別	特集展
主催	平塚市美術館
観覧料	一般 200(140)円、高大生 100(70)円 ※各減免をのぞく
入場者数	12,346人
担当	江口恒明(当館学芸員)
備考	速水御舟展開催中(10月4日～11月9日)は、開館時間を1時間延長。



リーフレット



展覧会図録

●内容

本展では、日本画家 伊藤彬(イワキキョウ・1940-)による墨と木炭を使ったモノクロームの現代的表現を紹介しました。

伊藤彬は、兵庫県西宮市で生まれ、現在は神奈川県秦野市で制作を続けています。1963年、東京藝術大学を卒業し、その直後から新制作協会展で入選。72年、同会会員となり、74年には創画会創立メンバーとして加わることとなりました。1984年「横の会」結成に参加、また、96年グループ「目」結成に参加。創画展とともに、横の会展・目展を主な活動の場としてきました。

展示では、まず、大学在学中の制作から80年代の後半までの多様な作風の展開を概観し、現在まで一貫して追求されているモノクロームの表現への志向、「うつろいゆくもの」への関心について紹介しました。

《祖母に聞いた話1》(1969年)や《花粉》(1974年)などの初期作品では、日常的風景を題材としながら、幻想的なイメージが表現されています。80年代になると、女性像や古典的モチーフが多く描かれるようになります。また、《雨上がる》(1981年・東京都現代美術館蔵)、《秋思》(1982年・埼玉県立近代美術館蔵)などは、後半で示される作品の傾向を予見させるものとなっています。

ついで、90年代から最近作までを展示し、作家の代表的な作品を紹介しました。《帰林鳥語》(1989年・京都国立近代美術館蔵)、《火》(1990年・立川市蔵)、《くずるる》(1991年・埼玉県立近代美術館蔵)などにみられるように、朽ち果てていく枯野、火、水などをモチーフに、うつろいやすい自然を生と死の象徴性をこめて表現する作品を制作し、墨と木炭による表現を深化させていきます。幻想の世界を描くフランスの画家オディロン・ルドンに傾倒する伊藤彬は、その版画の黒の美しさに強くひかれ、現在の表現方法に辿り着いたと言います。

近年の作品を中心とし、初期作品も含めた46点で、その画業を回顧しました。

●出品リスト

No	作品名	制作年	材質	初出展覧会	所蔵先
1	自画像	1959年	麻紙・岩絵具		当館
2	少女と楽器	1963年	麻紙・岩絵具	第27回新制作協会展	当館
3	毬乗りの家族	1963年	麻紙・岩絵具	第27回新制作協会展	当館
4	人間(2)	1964年	麻紙・岩絵具	第28回新制作協会展	当館
5	私の好きなもの	1968年	麻紙・岩絵具	新制作日本画春季展	当館
6	祖母に聞いた話1	1969年	麻紙・岩絵具	第33回新制作協会展	当館
7	花粉	1974年	麻紙・岩絵具	74リュミエール展	当館
8	森を渡る風	1979年	麻紙・岩絵具		当館
9	雨上がる	1981年	麻紙・墨、木炭、岩絵具	第8回創画展	東京都現代美術館
10	秋思	1982年	麻紙・墨、木炭、岩絵具	第9回創画展	埼玉県立近代美術館
11	夕人	1983年	麻紙・墨、木炭、岩絵具	第10回創画展	当館
12	月のうてな	1986年	麻紙・墨、岩絵具、胡粉、水干絵具	第3回横の会展	当館
13	夢一糸	1986年	麻紙・墨、岩絵具、胡粉、水干絵具	第3回横の会展	当館
14	約束	1987年	麻紙・墨、木炭、岩絵具	個展「人心月花」	当館
15	帰林鳥語	1989年	麻紙・墨、木炭	第16回創画展	京都国立近代美術館

16	春心	1989年	麻紙・墨、岩絵具、胡粉、水干絵具	第6回横の会展	刈谷市美術館
17	うつろひ	1990年	麻紙・墨、木炭、岩絵具	第17回創画展	刈谷市美術館
18	火(一)	1990年	麻紙・墨、木炭、岩絵具	第7回横の会展	立川市
19	火(二)	1990年	麻紙・墨、木炭、岩絵具	第7回横の会展	立川市
20	火(三)	1990年	麻紙・墨、木炭、岩絵具	第7回横の会展	立川市
21	火(四)	1990年	麻紙・墨、木炭、岩絵具	第7回横の会展	立川市
22	くずるる	1991年	麻紙・墨、木炭、岩絵具	第18回創画展	埼玉県立近代美術館
23	くずるる	1991年	麻紙・墨、木炭、岩絵具、胡粉	第8回横の会展	埼玉県立近代美術館
24	くずれゆく	1992年	麻紙・墨、木炭、岩絵具、水干絵具	第9回横の会展	青梅市立美術館
25	うつろふ	1993年	麻紙・墨、木炭、岩絵具	第10回横の会展	埼玉県立近代美術館
26	風姿水姿	1993年	麻紙・墨、木炭	第20回創画展	当館
27	帰林帰水	1994年	麻紙・墨、木炭	第21回創画展	当館
28	山水1	1995年	麻紙・墨、木炭	第22回創画展	当館
29	山水2	1996年	麻紙・墨、木炭	第23回創画展	当館
30	イメージのなかの山水1	1996年	麻紙・墨、木炭	第1回目展	横浜美術館
31	イメージのなかの山水2	1996年	麻紙・墨、木炭	第1回目展	横浜美術館
32	イメージのなかの山水3	1996年	麻紙・墨、木炭	第1回目展	横浜美術館
33	イメージのなかの山水4	1996年	麻紙・墨、木炭	第1回目展	横浜美術館
34	イメージのなかの山水5	1996年	麻紙・墨、木炭	第1回目展	横浜美術館
35	火	1997年	麻紙・墨、木炭、岩絵具	第24回創画展	当館
36	山水うつろふ1	1997年	麻紙・墨、木炭	第2回目展	当館
37	山水うつろふ2	1997年	麻紙・墨、木炭	第2回目展	当館
38	山水-行旅2	1998年	麻紙・墨	第3回目展	当館
39	山水-行旅3	1998年	麻紙・墨	第3回目展	当館
40	山水-帰山	1999年	麻紙・墨	第4回目展	当館
41	山水-如水	1999年	麻紙・墨	第4回目展	当館
42	山水-寒山	1999年	麻紙・墨	第4回目展	当館
43	山水-行水	1999年	麻紙・墨	第4回目展	当館
44	亡臆山水	2001年	麻紙・墨	2001 両洋の眼展	当館
45	帰心帰来	2005年	麻紙・墨、木炭、岩絵具	第10回目展	個人蔵
46	うつろい	2006年	麻紙・墨、岩絵具	第11回目展	個人蔵

※No. 38・45・46 は 9/27～10/19、No. 39・40～44 は 10/21～11/9 の展示。

●関連事業

事業名	日時、場所、講師等	参加者数
作家と学芸員によるギャラリートーク	10月11日(土) 14:00-15:00/展示室 I 伊藤彬氏・江口恒明(当館学芸員)	65人
学芸員によるギャラリートーク	10月25日(土) 14:00-15:00/展示室 I 江口恒明(当館学芸員)	35人
団体むけレクチャー	神奈川県立栗原高校	10人

●展覧会図録『伊藤彬展—モノクロームによる現代の表現—』

発行年月	2008年9月
価格	1,000円
体裁	サイズ:22.5cm×27.4cm 頁数:96頁
テキスト	対談「伊藤彬・大いに語る」(聞き手:草薙奈津子) 江口恒明「解説 伊藤彬作品の特色と変遷」
図版	出品作品46点/参考作品200点
資料等	参考作品・出品作品リスト・伊藤彬略年譜・文献目録
編集	江口恒明(平塚市美術館)
印刷	光村印刷株式会社
発行	平塚市美術館

●主な紹介記事・番組

月日	紹介内容
9月	「今月の展覧会案内⑨ 伊藤彬展」 月刊ギャラリー No281
10月	「伊藤彬展—モノクロームによる現代の表現—」 美術の窓 No301
10月15日(水)	田中三蔵「伊藤彬展/岡村桂三郎展 逸脱・越境に見る「日本画」の正統」 朝日新聞

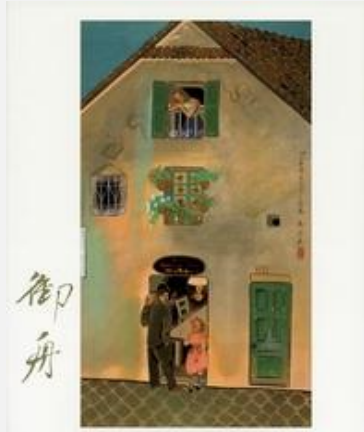
■ 7 近代日本画の巨匠 速水御舟—新たなる魅力—

会期：2008年10月4日(土)～11月9日(日) 開催日数 32日

種別	企画展
主催	平塚市美術館／日本経済新聞社
協賛	神奈川中央交通株式会社
助成	芸術文化振興基金／財団法人三菱UFJ信託地域文化財団／財団法人花王芸術・科学財団／財団法人野村国際文化財団
観覧料	一般 900(720)円、高大生 600(480)円 ※各減免をのぞく
入場者数	16,944人
担当	勝山滋(当館学芸員)



リーフレット



展覧会図録



会場風景

●内容

近代日本画の巨匠、速水御舟(ハヤギ ヨシウ・1894-1935)の展覧会を開催しました。本格的な御舟展は1993年に東京で開催されて以来15年ぶりとなります。御舟は1894(明27)年東京に生まれ、早くから才能を発揮し、以下のようにほぼ4～5年毎に作風を変化させながら充実した画境を見せていきました。

- (I) 大正初期の今村紫紅の影響を受けたおおらかな作風
- (II) その後の岸田劉生の影響をうけ、さらに独自の解釈を加えた「京の舞妓」に代表される細密描写の作風
- (III) 大正後期の風景画等に細密描写と西洋絵画の写実の融合した作風
- (IV) スランプの時代といわれながら幾多の名作・大作を残した昭和初期
- (V) 昭和5年の外遊後の明るく軽やかな風俗画的作風や女性人物画
- (VI) 晩年の老成したなかに宗達の影響も見られ、華やかさを内包する水墨画の名品の数々

また御舟は、療養する姉を見舞い、平塚市に隣接する湘南茅ヶ崎にしばしば滞在し、湘南に取材する作品を多数残し、御舟没後、夫人は生涯を茅ヶ崎で過ごしました。御舟の生涯はわずか40年余でしたが、だれよりも成熟し、だれよりも達観した生涯を貫いたといえます。そして現代の若手作家にまで強い影響を与えています。

本展では、1910(明43)年作「小春」から、1935(昭10)年最後の作品となった「盆梅図(未完)」にいたる、新出の作品も交えた約120点の作品により、(I)から(VI)の時代を追い、御舟の全体像に迫りました。

●出品リスト

No	作品名	制作年	材質・形状	初出展覧会	所蔵先
1	小春	1910年	絹彩軸	第10回巽画会展	桑山美術館
2	浦津(舟人)	1911年	絹彩額	第16回紅児会展	新潟県立近代美術館
3	暮雪	1913年	絹彩軸	紅児会静岡展	茂原市立美術館・郷土資料館
4	手向習作	1913年	紙彩額		個人蔵
5	焚火(秋の朝)	1913年	絹彩軸		霊友会妙一記念館
6	閑亭	1914年	絹彩軸		福井県立美術館

7	隠岐の海	1914年	絹彩軸	第1回赤曜会展	広島県立美術館
8	近村 紙すき場	1914年	絹彩軸	再興第1回院展	東京国立博物館
9	山茶花	1914年	絹彩軸	赤曜会横浜展・第3回赤曜会展	広島県立美術館
10	荒海	1915年	紙彩軸	第1回赤曜会展	財団法人ウッドワン美術館
11	浅春	1915年	絹彩軸		西丸山和楽庵
12	横浜	1915年	紙彩額	赤曜会横浜展・第2回赤曜会展	西丸山和楽庵
13	夏の丹波路	1915年	絹彩軸		埼玉県立近代美術館
14	短夜	1915年	絹彩軸		茂原市立美術館・郷土資料館
15	落葉かく人の居る風景	1916年	絹彩軸		練馬区立美術館
16	伊勢物語	1917年	絹彩軸(双幅)	第3回日本美術院試作展	大谷コレクション
17	笠置所見	1917年	紙彩軸		個人蔵
18	伊勢物語	1917年	紙彩軸(双幅)		個人蔵
19	浅春	1918年	絹彩軸		東京国立近代美術館
20	寺の径	1918年	絹彩軸	第2回日本美術院同人作品展	三溪園
21	洛北修学院村	1918年	絹彩額	再興第5回院展	滋賀県立近代美術館
22	比叡山	1919年	絹彩軸	再興第7回院展	東京国立博物館
23	葡萄にカリン	1920年	紙金地彩額		個人蔵
24	果物(林檎)	1920年	絹金地彩軸		豊田市美術館
25	鬱金桜	1920年	絹金地彩軸		西丸山和楽庵
26	京の舞妓	1920年	絹彩軸	再興第7回院展	東京国立博物館
27	ヒヤシンス	1921年	絹彩額		個人蔵
28	鳩	1921年	絹彩軸	東京会新作展	吉野石膏コレクション
29	菊花図	1921年	紙金地彩屏風	再興第8回院展	個人蔵
30	茶碗と果実	1921年	絹金地彩軸		東京国立近代美術館
31	溪泉二図	1921年	紙彩軸(双幅)	再興第8回院展	個人蔵
32	秋茄子に黒茶碗	1921年	絹金地彩額		京都国立近代美術館
33	鍋島の皿に柘榴	1921年	絹彩額		個人蔵
34	山茶花に猫	1921年	絹彩軸		西丸山和楽庵
35	猫(春眠)	1921年	絹彩軸		個人蔵
36	丘の並木	1922年	絹彩軸		個人蔵
37	燕子花	1922年	紙彩軸		個人蔵
38	日向葵	1922年	絹彩額	第1回安雅堂画塾展	霊友会妙一記念館
39	遊魚	1922年	絹彩軸		滋賀県立近代美術館
40	菊に猫	1922年	絹彩軸	東京会展	豊田市美術館
41	丘	1923年	紙彩額	再興第11回院展	個人蔵
42	西郊小景	1923年	紙彩額	再興第11回院展	愛知県美術館
43	芍薬図	1923年	紙彩額		個人蔵
44	西瓜図	1923年	絹彩額		個人蔵
45	平野晴景	1924年	紙彩額	再興第11回院展	西丸山和楽庵
46	黍ノ図	1924年	絹彩軸		メナード美術館
47	福面鸚哥図	1924年	紙彩軸		個人蔵
48	赤穂塩屋之景	1925年	絹彩軸	瀬戸内海写生展	個人蔵
49	にはとり	1925年	絹彩軸	第1回個展	個人蔵
50	離山 軽井沢	1925年	絹彩額		西丸山和楽庵
51	樹木	1925年	絹彩額	再興第13回院展	霊友会妙一記念館
52	赤蜻蛉	1925年	絹彩軸		西丸山和楽庵
53	喜久	1925年	紙彩軸		個人蔵
54	寒林	1925年	絹彩軸		茨城県立近代美術館
55	梅花図	1926年	絹金地彩額		個人蔵
56	牽牛花	1926年	絹彩軸	第1回個展	西丸山和楽庵
57	鬮虫	1926年	紙彩軸	第1回個展	個人蔵
58	甘果	1926年	紙彩軸	第1回個展	西丸山和楽庵
59	寒鳩寒雀	1927年	絹彩軸	大阪十合美術部開設展	宮城県美術館
60	春丘	1927年	絹彩額	三越絵画展	西丸山和楽庵
61	京の家・奈良の家	1927年	紙彩額(2面)	再興第14回院展	個人蔵
62	仲秋名月(梢上名月)	1927年	絹彩軸		西丸山和楽庵
63	晩冬の桜	1928年	紙雲母引地墨画額		福島県立美術館
64	晩秋の桜	1928年	紙金地彩額		財団法人ウッドワン美術館
65	枝折桜(八重桜)	1928年	絹彩軸		個人蔵
66	芦毛	1928年	絹彩額		個人蔵
67	鯉魚	1929年	紙彩軸	日本美術院同人作品展	大倉集古館
68	嫩芽	1929年	絹彩軸	三越絵画展	リベラル・インク株式会社
69	秋の梢(目白)	1929年	絹彩軸		個人蔵
70	鳴柿実	1929年	絹彩軸		滋賀県立近代美術館
71	燕子花	1929年	紙墨軸		個人蔵

72	彼南のサンパン	1931年	絹裏箔彩額	速水御舟遊欧小作展	財団法人長谷川町子美術館
73	オルヴェートにて	1931年	絹彩額	速水御舟遊欧小作展	西丸山和楽庵
74	マルケンの村娘	1931年	絹彩軸	速水御舟遊欧小作展	個人蔵
75	アルノ河畔の月夜	1931年	紙彩軸	速水御舟遊欧小作展	個人蔵
76	女二題(其一・其二)	1931年	絹彩額(2面)	再興第18回院展	福島県立美術館
77	白百合	1931年	紙彩軸		個人蔵
78	陀梨耶図	1931年	紙彩額		リパ・ホールディングス株式会社
79	紅葉葵(秋色)	1931年	絹彩軸		個人蔵
80	瓶梅図	1932年	紙彩額	春芳堂展	個人蔵
81	梅花馥郁	1932年	絹彩軸(双幅)		野間文化財団
82	木瓜二彩(木瓜妍春)	1932年	絹彩軸		個人蔵
83	花ノ傍	1932年	紙彩額	再興第19回院展	個人蔵
84	びなんかつらにるり図	1932年	紙彩軸	角谷二葉堂新作画展	個人蔵
85	寒鮒	1933年	紙墨軸		西丸山和楽庵
86	常夏ノ花	1933年	紙彩軸		個人蔵
87	秋色南京軍鶏	1933年	絹彩軸	東京会新作画展	西丸山和楽庵
88	紅白芙蓉(芙蓉図)	1933年	紙彩軸		個人蔵
89	曉に開く花(朝顔図)	1934年	紙彩軸		東京国立近代美術館
90	化生	1934年	絹彩軸	東西作家新作色紙展	西丸山和楽庵
91	花と果実	1934年	絹彩額	東西名家新作日本画額面展	リパ・ホールディングス株式会社
92	桔梗図涼夜	1934年	紙墨画淡彩軸	中川愛水草書展	西丸山和楽庵
93	白牡丹(牡丹華)	1934年	紙彩軸		西丸山和楽庵
94	鮎	1934年	紙金地彩扇面軸		個人蔵
95	芥子	1934年	紙彩軸		リパ・ホールディングス株式会社
96	秋茄子	1934年	紙彩軸	日本美術院同人第2回展	個人蔵
97	牡丹双華	1934年	紙彩軸		西丸山和楽庵
98	芙蓉	1934年	紙墨画淡彩軸		個人蔵
99	芙蓉(芙蓉風花)	1934年	紙墨画淡彩軸		個人蔵
100	鳴雞	1934年	絹彩軸		個人蔵
101	親子牛図	1935年	絹彩軸	第4回研究会展	西丸山和楽庵
102	サーカスの少女	1935年	絹彩軸	第4回研究会展	西丸山和楽庵
103	円かなる月(絶筆)	1935年	絹彩軸	松宮文明氏主催新作画展	霊友会妙一記念館
104	盆梅図(未完)	1935年	絹彩額		個人蔵
105	北野天神縁起絵巻(模写)	1909-12年	紙彩額		個人蔵
106	病草紙一鳥目の女(模写)	1909-12年	紙墨画額		個人蔵
107	赤城路之巻(草稿)	1916年	紙彩額		青梅市立美術館
108	赤城路之巻(草稿)	1916年	紙彩額		掛川市二の丸美術館
109	洛外六題宇治(下図)	1917年	紙彩額		茨城県近代美術館
110	広庭立夏(写生)	1922年	紙木炭額		茂原市立美術館・郷土資料館
111	鯉(写生)	1922年	紙鉛筆額		豊田市美術館
112	野火止(写生)	1923年	紙鉛筆額		西丸山和楽庵
113	樹木(写生)	1925年	紙ペン額		個人蔵
114	牡丹写生図巻	1925年頃	紙彩巻		個人蔵
115	昆虫写生図巻	1925年	紙彩巻		個人蔵
116	翠苔緑芝(小下図)	1928年	紙淡彩額		個人蔵
117	散椿(下図)	1929年	紙彩軸		個人蔵
118	椿(写生)	1934年頃	紙淡彩額		個人蔵
119	鳥類写生図巻	1934年	紙淡彩巻		個人蔵
120	松(下図)	1935年	紙木炭額		個人蔵
121	紅白芙蓉(追加出品)	1932年	絹彩額(2面)		個人蔵
◎資料					
1~2	遊欧中の手紙	1930年	2通		個人蔵
3~8	遊欧中の葉書	1930年	6葉		個人蔵
9	蒔絵の櫛と筭	1903-06年	—		個人蔵
10	絵皿一樵夫図	1915年	楽焼		個人蔵
11	留袖下絵屏風	1921年	紙彩屏風2曲半双		個人蔵
12	御舟夫人留袖	1921年	—		個人蔵
13	梅原龍三郎原稿 「御舟の画才」	不詳	2枚		個人蔵

※展覧会期間中、一部に展示替あり。

●関連事業

事業名	日時、場所、講師等	参加者数
講演会「御舟の生涯」	10月5日(日) 14:00-15:30/ミュージアムホール 講演：草薙奈津子(当館館長)	100人
講演会「日本画家から見た御舟」	10月18日(土) 14:00-15:30/ミュージアムホール 講演：中島千波氏(日本画家)	230人
講演会「速水御舟の画業-《京の舞妓》を中心に-」	11月1日(土) 14:00-15:30/ミュージアムホール 講演：古田亮氏(東京藝術大学准教授)	130人
学芸員によるギャラリートーク	10月26日(日)70人、11月3日(月祝)80人 各回14:00-/美術館展示室/解説：勝山滋(当館学芸員)	計150人
団体むけレクチャー	10月4日(土) 茨城県近代美術館友の会 10月4日(土) 開成町教育委員会生涯学習課町民センタ講座 10月7日(火) NHK文化センター町田教室 10月9日(木) 掛川市二の丸美術館協議会 10月23日(木) 公民館(大神、崇善) 11月5日(水) サンシティ神奈川 11月6日(木) 公民館(岡崎、神田、城島)	計216人

●展覧会図録『近代日本画の巨匠 速水御舟—新たなる魅力』

発行年月	2008年10月
価格	2,000円
体裁	サイズ:27.5cm×22.7cm 頁数:160頁
テキスト	草薙奈津子「未完で逝った偉大なる天才・速水御舟」 勝山滋「作品評 解題—速水御舟の新たな作家像をめぐって」
図版	作品120点、資料14点
資料等	速水御舟作品評・速水御舟年譜・参考文献・出品目録
編集	勝山滋(平塚市美術館)
制作	印象社
発行	平塚市美術館、日本経済新聞社

●主な紹介記事・番組

月日	紹介内容
10月	「今月の展覧会 近代日本画の巨匠 速水御舟—新たなる魅力」 趣味の水墨画 第234号
10月1日(水)	「必見!15年ぶりの開催 近代日本画の巨匠 速水御舟—新たなる魅力—」 湘南よみうり 第346号
10月8日(水)	宝玉石彦「常時110点を並べる規模は初 速水御舟展」 日本経済新聞
10月12日(日)	NHK新日曜美術館・アートシーン
10月18日(土)	「速水御舟展 近代日本画の巨匠」 日経新聞 アートライフ
10月20日(月)	「劉生が賞讃してやまなかった御舟の世界 十五年ぶりの本格的な御舟展」 美術の窓 301号
10月21日(火)	勝山滋「近代日本画の巨匠 速水御舟—新たなる魅力— 大きな日本画のあるべき根本」 新美術新聞 第1166号
10月29日(水)	秋山亮太「速水御舟展 華麗に描写した画境」 朝日新聞
10月29日(水)	「速水御舟の日本画展 平塚市美術館で開催」 読売新聞

●来賓

11月7日(金) 秋篠宮紀子妃殿下が速水御舟展を御観覧されました。

■ 8 鳥海青児と三岸好太郎

会期 2008年11月15日(土) - 2009年1月12日(月・祝) 開催日数 47日

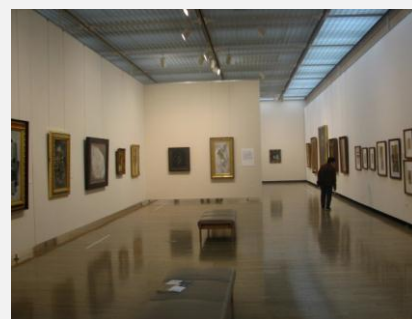
種別	企画展
主催	平塚市美術館・読売新聞東京本社・美術館連絡協議会
協賛	ライオン・清水建設・大日本印刷・神奈川中央交通株式会社
特別協力	北海道立三岸好太郎美術館
観覧料	一般 500(400)円、高大生 300(240)円 ※各減免をのぞく
入場者数	6,045人
担当	土方明司(当館館長代理)



リーフレット



展覧会図録



会場風景

●内容

日本の近代洋画を代表する二人の作家の展覧会を開催しました。

鳥海青児(チョウカエジ・1902-72)は神奈川県平塚市に生まれ、中学生時代から絵画に取組み、1924年の春陽会に初入選しました。以後、渡欧を経て油彩画による表現の可能性を探究し続け、厚重なマチエールと深みのある色彩で独自の造形世界を築き、日本洋画史に異彩を放つ存在となりました。

三岸好太郎(ミギシマコウタロウ・1903-34)は北海道札幌市生まれ。札幌での中学時代に絵画を始め、卒業後に上京。1923年に春陽会に入選しました。その後独立美術協会の創立に最年少で参加、画風のめまぐるしい変転を見せた約十年の画業の末、31歳で夭折しました。

春陽会への参加を通じて知合った二人は、若手作家のグループ「麓人社」での活動を展開し、また1928年、三岸の故郷である北海道と一緒に旅行をして札幌で展覧会を開催するなど、切磋琢磨しながら交流を深めていきます。

本展は、平塚市美術館の所蔵する鳥海青児作品、北海道立三岸好太郎美術館の所蔵する三岸好太郎作品、および資料等の展示を通じて、二人の画業を代表的な作品により紹介し、あわせて両者の交流が作品に与えた影響を探りました。

●出品リスト

No	作品名	制作年	材質・形状	初出展覧会	所蔵先
◎鳥海青児作品					
1	開墾地の風景	1922年頃	油彩・キャンバス		横須賀美術館
2	芦屋風景	1926年	油彩・板	第6回春陽会展	当館
3	静物	1926年	油彩・板	第1回聖徳太子奉賛展	当館
4	裸婦	1926-30年	油彩・キャンバス		当館
5	裸婦(横たわる)	1926-30年	油彩・キャンバス		当館
6	裸婦	1928年頃	油彩・板		当館
7	シベリア駅路の雪	1930年	油彩・キャンバス		当館
8	グーベルヌマン広場	1932年	油彩・キャンバス		当館
9	アルジェ風景	1932年	油彩・キャンバス		当館
10	オランダ風景	1932年	油彩・ボード		当館
11	夜のノートル・ダーム	1932年	油彩・キャンバス		個人蔵
12	アルゼリー港	1933年	油彩・キャンバス		当館
13	水田	1936年	油彩・キャンバス	第14回春陽会展	当館

14	石橋のある風景	1937年	油彩・キャンバス	第15回春陽会展	当館
15	ゼリスト(B)	1937年	油彩・キャンバス	第15回春陽会展	個人蔵
16	高カラーの男	1938年	油彩・キャンバス	第16回春陽会展	個人蔵
17	道化	1938年	油彩・キャンバス	第16回春陽会展	個人蔵
18	蘇州風景	1939年	油彩・キャンバス	第17回春陽会展	当館
19	道化	1939年	油彩・キャンバス		当館
20	道化	1939年	油彩・キャンバス		横須賀美術館
21	アカシア	1941年	油彩・キャンバス	第19回春陽会展	当館
22	北京天壇	1941年	油彩・ボード		当館
23	天津のフランス寺院	1942年	油彩・キャンバス		当館
24	男像	1942年	油彩・キャンバス	春陽会20周年記念展	当館
25	オランダ水差しとレモン	1949-51年	油彩・厚紙		当館
26	草花	1950-60年	油彩・キャンバス		当館
27	段々畑	1952年	油彩・キャンバス	第1回日本国際美術展	当館
28	狸穴の森	1954年	油彩・キャンバス	1959年鳥海青児作品展	当館
29	シルクの馬(サーカスの馬)	1954年	油彩・キャンバス	1959年鳥海青児作品展	当館
30	川沿いの家	1954年	油彩・キャンバス	1959年鳥海青児作品展	当館
31	二重橋	1956年	油彩・キャンバス		当館
32	黄色い人	1956年	油彩・キャンバス	創立25周年記念第24回独立美術協会展	当館
33	伊賀瓶子とメロン	1957年	油彩・合板	第4回日本国際美術展	当館
34	ピカドール	1958年	油彩・キャンバス	1966年鳥海青児展	当館
35	大理石をかつぐイタリア人(大理石をはこぶ男)	1958年	油彩・キャンバス		当館
36	スペイン風景	1959年	油彩・キャンバス		当館
37	はにわ	1959年	油彩・キャンバス		当館
38	ブラインドをおろす	1959年	油彩・キャンバス		当館
39	メキシコの西瓜(メキシコ風の西瓜)	1961年	油彩・キャンバス		当館
40	インカの石街	1961年頃	油彩・キャンバス		当館
41	石だたみ(印度ベナレス)	1962年	油彩・キャンバス	第30回独立美術協会展	当館
42	果汁を吸うマヤ人	1964年	油彩・キャンバス	第6回現代日本美術展	当館
43	木心の出た法隆寺塑像	1967年	油彩・キャンバス		当館
44	メキシコ人の家族	1969年	油彩・キャンバス	第37回独立美術協会展	当館
45	根来瓶子と果物	1971年	油彩・キャンバス	第39回独立美術協会展	当館
46	フラメンコ	1972年	油彩・キャンバス		当館
47	横堀角次郎の昼寝	1926-30年	鉛筆・紙		当館
48	男像(森田勝の顔)	1927年	コンテ・紙		当館
49	北海道風景	1928年	コンテ・紙		当館
50	裸婦	1928年	油彩・紙		当館
51	北海道風景	1928年	コンテ・紙		当館
52	北海道風景	1928年	コンテ・紙		当館
53	自画像	1929年	コンテ・紙		当館
54	シベリヤ線キローク駅	1930年	鉛筆、コンテ、水彩・紙		当館
55	シベリアの雪路	1930年	鉛筆・紙		当館
56	ベルリン	1930年	コンテ・紙		個人蔵
57	ベルリン	1930年	コンテ・紙		個人蔵
58	ワルソー公園入口	1930年	コンテ・紙		個人蔵
59	男像	1930年頃	コンテ・紙		当館
60	ピカドール(1)	1931年	鉛筆、パステル・紙		当館
61	闘牛士(1)	1931年頃	コンテ、パステル・紙		当館
62	ベニス	1933年頃	鉛筆、パステル、水彩・紙		当館
63	アルゼリー港	1936年頃	パステル・紙		当館
64	塹壕のある風景(2)	1938年	鉛筆・紙		当館
65	兵隊の通る風景 漢口日本領事館附近	1939年	インク・紙		当館
66	静物	1947年	鉛筆、パステル、水彩・紙		個人蔵
67	銚子の海	1948年頃	鉛筆、パステル、水彩・紙		当館
68	雪の下にて 土門拳の像	1950年頃	鉛筆、水彩・紙		個人蔵
69	うづくまる	1954年	鉛筆、パステル、水彩・紙		当館
70	裸婦	1955年	鉛筆、パステル・紙		当館
71	梳る女	1955年頃	鉛筆、油彩・紙		当館
72	裸婦	1955年頃	鉛筆、パステル・紙		当館
73	裸婦	1956年	鉛筆、パステル、水彩・紙		個人蔵
74	パルマにて	1957年	鉛筆・紙		当館
75	ヴェローナにて 聖アナスタシア教会	1957年	鉛筆・紙		当館
76	ルカの寺院	1957年	鉛筆、パステル・紙		当館
77	アッシジ	1957年	鉛筆、パステル・紙		当館
78	フラメンコ	1957年頃	鉛筆、パステル・紙		個人蔵
79	ピカドール(2) 馬と牛	1958年頃	鉛筆、パステル・紙		当館
80	ピカドール(4)	1958年頃	パステル、インク・紙		当館
81	闘牛士(4)	1958年頃	鉛筆、パステル・紙		当館
82	ピカドール(3)	1958年頃	鉛筆、パステル・紙		当館
83	石をかつぐ	1958年頃	鉛筆、パステル、水彩・紙		当館
84	石をかつぐ男	1958年頃	鉛筆、パステル・紙		個人蔵
85	自画像	1959年頃	鉛筆・紙		当館
86	【バジリカ ベツレヘム】石彫	1960年	鉛筆、パステル・紙		個人蔵

87	膝をつくインド人	1960年頃	鉛筆、パステル・紙		当館
88	[インド ピタルコーラ] 石像	1960年頃	鉛筆、パステル、水彩・紙		当館
89	横たわるメキシコ人	1961年頃	鉛筆、パステル・紙		個人蔵
90	小林秀雄像	不詳	インク・紙		個人蔵
◎三岸好太郎作品					
1	大塚仲町風景	1922年	油彩・キャンバス		三岸好太郎美術館
2	大塚仲町風景	1922年頃	油彩・キャンバス		三岸好太郎美術館
3	花を持つ少女	1922年頃	油彩・ボール紙		三岸好太郎美術館
4	ラケットをもつ少年と少女と犬	1922年頃	油彩・ボール紙		三岸好太郎美術館
5	棒持てる少女	1923年	油彩・ボール紙	第1回春陽会展	三岸好太郎美術館
6	二人人物	1923年頃	油彩・キャンバス		三岸好太郎美術館
7	赤い肩かけの婦人像	1924年	油彩・キャンバス		三岸好太郎美術館
8	兄及び彼ノ長女	1924年	油彩・キャンバス		三岸好太郎美術館
9	崖ノ風景	1924年	油彩・キャンバス		三岸好太郎美術館
10	机上の静物	1925年	油彩・板	第2回春陽会展	三岸好太郎美術館
11	裸体	1925年頃	油彩・キャンバス	第2回春陽会展	三岸好太郎美術館
12	我孫子風景	1925年頃	油彩・キャンバス		三岸好太郎美術館
13	上海風景	1926年	油彩・キャンバス	三岸好太郎・鳥海青児・吉田節子展覧会	三岸好太郎美術館
14	支那の少女	1926年	油彩・キャンバス		三岸好太郎美術館
15	中国婦人群像	1927年頃	油彩・ボール紙		三岸好太郎美術館
16	なすび	1927年頃	油彩・キャンバス	第5回春陽会展	三岸好太郎美術館
17	今博士肖像	1927年頃	油彩・キャンバス		三岸好太郎美術館
18	陽子像	1927年頃	油彩・キャンバス		三岸好太郎美術館
19	大通教会	1928年頃	油彩・キャンバス	三岸好太郎・鳥海青児・吉田節子展覧会	三岸好太郎美術館
20	面の男	1929年	油彩・キャンバス		三岸好太郎美術館
21	マリオネット	1930年	油彩・キャンバス		三岸好太郎美術館
22	道化	1930-31年頃	油彩・キャンバス	第7回春陽会展	三岸好太郎美術館
23	猫	1931年	油彩・キャンバス	第8回春陽会展	三岸好太郎美術館
24	道化役者	1932年	油彩・キャンバス		三岸好太郎美術館
25	立てる道化	1932年頃	油彩・キャンバス	独立美術協会秋季展	三岸好太郎美術館
26	大通公園	1932年	油彩・キャンバス	第2回独立美術協会展	三岸好太郎美術館
27	水盤のある風景	1932年	油彩・キャンバス	第5回独立美術協会展	三岸好太郎美術館
28	花	1932年	油彩・キャンバス		三岸好太郎美術館
29	花ト蝶	1932年	油彩・キャンバス		三岸好太郎美術館
30	乳首	1932年	油彩・キャンバス		三岸好太郎美術館
31	花	1932年	油彩・キャンバス	三岸好太郎個展	三岸好太郎美術館
32	オーケストラ	1932年	油彩・キャンバス	第3回独立美術協会展	三岸好太郎美術館
33	花	1933年	油彩・キャンバス	第5回独立美術協会展	三岸好太郎美術館
34	コンポジション	1933年	油彩・キャンバス		三岸好太郎美術館
35	パレットのある静物	1933年	油彩・キャンバス		三岸好太郎美術館
36	金魚	1933年頃	油彩・キャンバス		横須賀美術館
37	のんびり貝	1934年	油彩・キャンバス	第4回独立美術協会展	三岸好太郎美術館
38	籠を持つ少女	1924年頃	水彩・紙		三岸好太郎美術館
39	上海風景	1926年	墨・紙		三岸好太郎美術館
40	姑娘	1926年	水彩・紙		三岸好太郎美術館
41	道化	1929年	鉛筆・紙		三岸好太郎美術館
42	マリオネット	1930年	墨・紙		三岸好太郎美術館
43	読書少女	1930年頃	水彩・紙		三岸好太郎美術館
44	二人人物	1930年頃	水彩・紙		三岸好太郎美術館
45	マリオネットをする少女	1931年頃	墨・紙		三岸好太郎美術館
46	道化の顔	1931年頃	墨・紙		三岸好太郎美術館
47	道化	1931年頃	墨・紙		三岸好太郎美術館
48	婦人像	1931年頃	コンテ・紙		三岸好太郎美術館
49	少女像	1931年頃	コンテ・紙		三岸好太郎美術館
50	裸婦	1932年頃	鉛筆・紙		三岸好太郎美術館
51	背面裸婦	1932年	墨・紙		三岸好太郎美術館
52	オーケストラ	1933年	クレヨン・紙		三岸好太郎美術館
53	オーケストラ	1933年	クレヨン・紙		三岸好太郎美術館
54	オーケストラ	1933年	墨・鉛筆・紙		三岸好太郎美術館
55	見物客	1933年	コラージュ・紙		三岸好太郎美術館
56	飛行船と人物	1933年頃	コラージュ、水彩、墨・紙		三岸好太郎美術館
57	ぶらさがる男	1933年頃	鉛筆・紙		三岸好太郎美術館
58	二人人物室内	1933年頃	墨・紙		三岸好太郎美術館
59	海浜の裸婦	1934年	インク・鉛筆・紙		横須賀美術館
60	蛾と蝶	1934年	墨・紙		三岸好太郎美術館
61	リボン	1934年	墨・紙		三岸好太郎美術館
62	筆彩素描集『蝶と貝殻』(復刻版)	1934年制作 《1982年7月1日発行》	印刷(凸版墨刷)・手彩色 (水彩・グワッシュ)・紙		三岸好太郎美術館

※所蔵先表記「三岸好太郎美術館」の正式名称は「北海道立三岸好太郎美術館」。

●関連事業

事業名	日時、場所、講師等	参加者数
講演会「鳥海青児と三岸好太郎」	11月29日(土) 14:00-15:30/ミュージアムホール 原田光氏(美術評論家)	40人
学芸員によるギャラリートーク	11月22日(土)、12月14日(日)、12月20日(土) 各回14:00-14:40/展示室/解説:土方明司(当館館長代理)	60人
団体むけレクチャー	11月19日(水) アート21	20人
	1月11日(日) 公民館	21人

●展覧会図録『鳥海青児と三岸好太郎』

発行年月	2008年9月
価格	1,000円
体裁	サイズ:30.0cm×22.2cm 頁数:36頁
テキスト	土方明司「鳥海青児と三岸好太郎-初期春陽会時代について-」 苫名直子「二人のロマンチストと1928年の北海道旅行」
図版	鳥海青児作品36点、三岸好太郎作品27点
資料等	主要作品解説・略年譜・文献再録・関連主要文献
編集	土方明司(平塚市美術館)
制作	中西印刷株式会社
編集・発行	北海道立三岸好太郎美術館・平塚市美術館

●主な紹介記事・番組

月日	紹介内容
11月	「特別展 鳥海青児と三岸好太郎」美術の窓 No302
11月16日(日)	「2メートル超の大作など140点一堂に「鳥海青児と三岸好太郎」展始まる」読売新聞
11月19日(水)	「鳥海青児と三岸好太郎展 互いに与えた影響探る」日本経済新聞
11月20日(木)	土方明司「静寂と虚無感が支配「鳥海青児と三岸好太郎」展」読売新聞
11月20日(木)	「鳥海青児と三岸好太郎展」タウンニュース No1075
11月21日(金)	「鳥海青児と三岸好太郎展」湘南ホームジャーナル 1343号
11月22日(土)	土方明司「親友の死へのオマージュ「鳥海青児と三岸好太郎」展」読売新聞
11月24日(月)	「鳥海と三岸 交流、創作の軌跡 代表作140点を展示」読売新聞
12月	「鳥海青児と三岸好太郎展」湘南いどばたかいぎ vol. 123
12月	「鳥海青児と三岸好太郎展」定年時代 12月号
12月11日(木)	「鳥海青児と三岸好太郎展 平塚市美術館」アートカレンダー 産経新聞
12月24日(水)	「「オーケストラ」三岸好太郎 躍動感あふれるのは」朝日新聞 美の履歴書090
1月	「鳥海青児と三岸好太郎展」ゆうゆう 90号
2月	「鳥海青児と三岸好太郎」家庭画報 2月号 52(2)

9 冬の所蔵品展 山下菊二と菅野陽

会期：2008年11月22日(土)～12月25日(木) 開催日数30日



山下菊二作品



菅野陽作品

種別 特集展
 主催 平塚市美術館
 観覧料 一般200(140)円、高大生100(70)円
 ※各減免を除く
 入場者数 2,083人
 担当 端山聡子(当館学芸員)

●内容

この特集展では、美術団体「前衛美術会」の結成(1947年)に関わった二人の画家を紹介しました。

山下菊二(ヤマシタキクジ・1919-86)は、二度の応召による過酷な戦争体験から政治的関心を深め、日本の戦後史に関わる作品を描きました。シュルレアリスムの手法を用いた作品を数多く手がけ、1960年代以降は抽象化された表現で、日本の土俗性や差別をテーマに、制作を行いました。

同い年の菅野陽(カノノヨ・1919-95)もまた、自らの戦争体験を表現しました。日本画から出発した菅野は油彩画を経て、1954年、関野準一郎の版画研究所で銅版画を知り、以後は版画制作に移行します。人体とその群像、神話、古墳壁画の映像などをモチーフとして日本の銅版画を代表する作品を制作しました。1990年、茅ヶ崎市十間坂に転居し、湘南にゆかりのある画家として当館では1996年に菅野陽回顧展を開催しています。

社会と人間の在り方を問題意識とした画家たちの特異な作品群を展覧しました。

●出品リスト

No	作家名	作品名	制作年	サイズ(mm)	技法	所蔵先
1	山下菊二	死霊とともに	1962年	1770×2140	油彩・板(ベニヤ)	当館寄託
2	山下菊二	おかめのmake-up	1964年	1930×1620	油彩・キャンバス	当館寄託
3	山下菊二	地下壕-1	1966年	1300×1940	油彩・キャンバス	当館寄託
4	山下菊二	葬列	1967年	1310×1940	油彩・キャンバス	当館寄託
5	山下菊二	祀られる戦士	1967年	1300×1940	油彩・キャンバス	当館寄託
6	山下菊二	渚	1973年	1620×1300	油彩・キャンバス	当館寄託
7	菅野陽	やつで	1940年頃	1700×820	彩色・紙	当館
8	菅野陽	高架線の下	1943年	1860×1250	彩色・紙	当館
9	菅野陽	かにの横ばい	1951年頃	608×800	油彩・キャンバス	当館
10	菅野陽	虐げられる人びと	1951年	1302×970	油彩・キャンバス	当館
11	菅野陽	夜明け	1952年	1160×912	油彩・キャンバス	当館
12	菅野陽	ひと	1953年	912×655	油彩・キャンバス	当館
13	菅野陽	四人	1954年	972×1004	油彩・キャンバス	当館
14	菅野陽	かっぱ	1954年	198×133	銅版・紙	当館
15	菅野陽	寄らないで(a)	1954年	110×104	銅版・紙	当館
16	菅野陽	寄らないで(b)	1954年	112×104	銅版・紙	当館
17	菅野陽	四人	1956年	348×425	銅版・紙	当館
18	菅野陽	れつ(B)	1956年	353×462	銅版・紙	当館
19	菅野陽	おしくらまんじゅう(A)	1957年	320×472	銅版・紙	当館
20	菅野陽	おしくらまんじゅう(B)	1957年	162×355	銅版・紙	当館
21	菅野陽	あるくむれ	1957年	353×465	銅版・紙	当館
22	菅野陽	ふきとぶ	1957年	320×530	銅版・紙	当館
23	菅野陽	密談	1957年	355×229	銅版・紙	当館
24	菅野陽	おどり	1958年	350×412	銅版・紙	当館
25	菅野陽	待つ	1958年	253×410	銅版・紙	当館
26	菅野陽	はねるクラウン	1958年	403×322	銅版・紙	当館
27	菅野陽	地	1959年	278×412	銅版・紙	当館
28	菅野陽	軽業師	1960年	410×248	銅版・紙	当館
29	菅野陽	だだっこ(B)	1960年	102×274	銅版・紙	当館

30	菅野 陽	泥人	1960年	260×443	銅版・紙	当館
31	菅野 陽	具足	1960年	350×230	銅版・紙	当館
32	菅野 陽	歩く	1960年	100×212	銅版・紙	当館
33	菅野 陽	王の墓	1961年	352×296	銅版・紙	当館
34	菅野 陽	生	1962年	361×415	銅版・紙	当館
35	菅野 陽	衝激	1963年	355×535	銅版・紙	当館
36	菅野 陽	トルソD	1964年	442×460	銅版・紙	当館
37	菅野 陽	四つ目	1964年	177×180	銅版・紙	当館
38	菅野 陽	行道	1964年	220×130	銅版・紙	当館
39	菅野 陽	古墳より(輪)	1967年	410×294	銅版・紙	当館
40	菅野 陽	並ぶこどもら	1968年	290×414	銅版・紙	当館
41	菅野 陽	すわる	1968年	297×412	銅版・紙	当館
42	菅野 陽	夜	1976年	500×357	銅版・紙	当館
43	菅野 陽	三角文(古墳より)	1986年	177×235	銅版・紙	当館
44	菅野 陽	日と人と動物たちと(古墳より)	1986年	176×234	銅版・紙	当館
45	菅野 陽	古墳彩画より(群像と渦文)	1991年	235×179	銅版・紙	当館

■10 新春の所蔵品展 現代作家の表現

会期：2009年1月4日(日)～2月22日(日) 開催日数 43日



上野泰郎《さすらう》1976年 当館蔵

種別 特集展
 主催 平塚市美術館
 観覧料 一般 200(140)円、高大生 100(70)円
 ※各減免を除く
 入場者数 3,755人
 担当 端山聡子(当館学芸員)

●内容

当館でこれまで展覧会を開催した石井礼子(イイルイコ)、伊藤彬(イトウキヲ)、内田あぐり(ウチダアグリ)、益井三重子(マスイエコ)、工藤甲人(イトウカウジン)といった作家たちや、近年収蔵された猪熊佳子(イノクマキコ)、上野泰郎(ウヱノヤスオ)、上田臥牛(ウエダガキウ)、津田一江(ツジダカズエ)、水谷愛子(ミヅタアイコ)、麻田鷹司(アサダタカシ)、大河内正夫(オホウチマサオ)、佐藤晨(サトウジ)、鈴木至夫(スズキリウオ)、堀文子(ホリフミコ)の絵画、また陶芸家、藤本能道(フジノミチノリ)の作品を展示しました。

作品は風景、人物、室内、静物が主たるテーマですが、上田臥牛は来る春を思わせる梅の木、益井三重子が花瓶に挿した多彩な花、大河内正夫は平塚の名産でもある華やかな薔薇をテーマに描いています。室内の情景や家族を描く石井礼子、また、水谷愛子の描く少女たちは観る者を和ませてくれます。冬の風景としては、北の凍てつく景色を描いた鈴木至夫、月光が冴え渡る佐藤晨、白く降り積もる雪の景色を描いた麻田鷹司の作品などを展示。また、堀文子の明るいトスカーナ地方を描いた風景画、津田一江の現代的で等身大の女性たち、上野泰郎の人間の抽象化や、伊藤彬や内田あぐりの作品に描かれる現実から隔たった幻想的な人々等、16人の現代作家たちの競演を、展覧しました。

●出品リスト

No	作家名	生没年	作品名	制作年	サイズ(cm)	技法	所蔵先
1	麻田鷹司	1928-1987	雪景	1972年	49.0×64.4	彩色・紙	当館寄託
2	麻田鷹司	1928-1987	樹氷林	1974年	60.1×45.1	彩色・紙	当館寄託
3	麻田鷹司	1928-1987	越路雪後	1982年頃	44.6×60.0	彩色・紙	当館寄託
4	麻田鷹司	1928-1987	山湖雪霽	1983年	49.3×64.7	彩色・紙	当館寄託
5	麻田鷹司	1928-1987	月下雪溪	1970年	45.0×60.4	彩色・紙	当館寄託
6	石井礼子	1974-	忙しい日 I	2002年	211.5×153.0	墨・紙	当館

7	伊藤 彬	1940-	青幻記	1976年	176.0×264.0	彩色・紙	当館
8	猪熊佳子	1958-	神話の国から	2005年	220.0×479.0	彩色・紙	当館
9	上田臥牛	1920-1999	古木(梅)	1975年	179.0×190.0	彩色・紙	当館寄託
10	上野泰郎	1926-2005	東邦の人々	1967年	165.0×261.0	彩色・紙	当館
11	上野泰郎	1926-2005	さすらう	1976年	270.0×206.0	彩色・紙	当館
12	内田あぐり	1949-	吊された男#01K	2001年	240.0×480.0	彩色・紙	当館
13	大河内正夫	1920-	薔薇	不詳	72.5×91.0	彩色・紙	当館寄託
14	工藤甲人	1915-	愉しき仲間(一)	1951年	162.3×130.3	彩色・紙	当館
15	工藤甲人	1915-	愉しき仲間(二)	1951年	130.5×162.0	彩色・紙	当館
16	工藤甲人	1915-	このはづく	1961年	45.0×52.7	彩色・紙	当館
17	佐藤晨	1935-	白洗	1995年	162.1×227.3	彩色・紙	当館寄託
18	佐藤晨	1935-	幻月	1998年	162.0×227.0	彩色・紙	当館寄託
19	鈴木至夫	1929-	北海冬陽	2007年	172.5×218.0	彩色・紙	当館寄託
20	津田一江	1950-	あこの(わが心のキアーラ)	1981年	205.0×205.0	彩色・紙	当館
21	津田一江	1950-	横たわる	1983年	161.0×160.0	彩色・紙	当館
22	藤本能道	1919-1992	色絵鶏頭図 花壺	不詳	28.0×21.5	陶磁器	当館寄託
23	堀 文子	1918-	トスカーナの花野	1990年	80.3×116.5	彩色・紙	当館寄託
24	益井三重子	1910-	ラソちゃん	1953年	77.0×62.5	彩色・紙	当館
25	益井三重子	1910-	盛花	不詳	91.0×64.0	彩色・紙	当館
26	水谷愛子	1924-2005	仲よし	1998年	170.0×215.0	彩色・紙	当館

●関連事業

事業名	日時、場所、講師等	参加者数
団体むけレクチャー	2月5日(木) 厚木南民生委員・児童委員協議会	20人

●主な紹介記事・番組

月日	紹介内容
1月1日(木)	「新春の所蔵品展 現代作家の表現」 タウンニュース第1081号
2月4日(水)	「現代作家が競演 平塚市美術館 花鳥風月から抽象画まで」 神奈川新聞

■11 ロビー展 湘南の彫刻

会期：2009年1月14日(水)～5月24日(日) 開催日数114日



保田春彦《石にもたれる幕舎》当館蔵

種別	特集展
主催	平塚市美術館
観覧料	無料
入場者数	※無料スペースのため集計なし
担当	端山聡子(当館学芸員)

●内容

2009年のロビー展第1回は「湘南の彫刻」というテーマで、国方林三(クニカタシヅウ)、藤井浩佑(フジイコウユウ)、堀進二(ホリシンジ)、保田春彦(ヤスタグハルヒコ)、保田龍門(ヤスタグリュウモン)、山本正道(ヤマモトマサチ)の6名の作家による近・現代彫刻を展示しました。保田龍門と保田春彦は父子で共に彫刻家であり、2004年には当館で「保田龍門・春彦—絵画と彫刻展—」を開催いたしました。龍門は若い頃、藤井浩佑のアトリエを訪ね彫刻を学ぶという、藤井との関わりがありました。大磯在住の保田春彦は、1991年の開館時に前庭に《赤錆の幕舎》が設置され、2004年の展覧会を機に《地を這うかたち》がライトコート内に設置されました。湘南在住の山本正道も《風と少女》がテーマホール2階に展示中です。日ごろ目にする事の少ない彫刻作品を気軽に来館者が鑑賞できるよう、館内無料スペースにて開催しました。

●出品リスト

No	作家名	生没年	作品名	制作年	技法年	所蔵先
1	保田春彦	1930-	幕舎試作・鉄	1991年	鉄	当館
2	保田春彦	1930-	石にもたれる幕舎	1992年	ステンレス・スチール、石、鉄塗装	当館
3	保田春彦	1930-	新作のためのエスキースIV	1994年	ブロンズ、黒花崗岩	当館
4	保田春彦	1930-	遠い風景G	2001-02年	鉄	当館
5	保田春彦	1930-	遠い風景I	2001-02年	鉄	当館
6	保田春彦	1930-	遠い風景J	2001-02年	鉄	当館
7	保田龍門	1891-1965	ヴィーナス トルソ	1920-30年	ブロンズ	当館
8	保田龍門	1891-1965	F嬢	1945-55年	ブロンズ	当館
9	保田龍門	1891-1965	うずくまる女	1947年	ブロンズ	当館
10	保田龍門	1891-1965	半裸座像	1945-55年	ブロンズ	当館
11	保田龍門	1891-1965	裸婦仰臥	1945-55年	ブロンズ	当館
12	山本正道	1941-	坐る	1982年	ブロンズ	平園賢一氏
13	堀 進二	1890-1978	足を拭う女	1918年	ブロンズ	平園賢一氏
14	国方林三	1883-1967	母子	大正時代頃	ブロンズ	平園賢一氏
15	藤井浩祐	1882-1958	浴女	不詳	ブロンズ	平園賢一氏
16	林辺正子	1940-2004	Transudation 浸出	1994年	和紙、鉄	当館
17	林辺正子	1940-2004	Transillumination 透照	1994年	ナイロン糸、鉄	当館
18	林辺正子	1940-2004	備忘録 Memorabilia	1994年	粘土、胡粉	当館
19	林辺正子	1940-2004	Jardin Clos 2	1999年	石膏粘土	当館
20	林辺正子	1940-2004	Jardin Clos 4	1999年	石膏粘土、鉛	当館

※No. 16～20 林辺正子作品は 2/24～に追加展示。

■12 湘南と作家Ⅱ 没後10年 写真家濱谷浩の眼

会期：2009年2月27日(金)～4月12日(日) 開催日数39日



濱谷浩《田植女》当館蔵

種別 特集展
 主催 平塚市美術館
 観覧料 一般200(140)円、高大生100(70)円 ※各減免を除く
 入場者数 2,118人
 担当 小池光理(当館学芸員)



濱谷浩《サイの神の行事に集まった人々》当館蔵

●内容

特集展「湘南と作家Ⅱ」として、没後10年を迎えた世界的に著名な写真家濱谷浩(ハマヒロシ・1915-99)の作品を紹介しました。

濱谷浩は東京下谷に生まれ、15才のとき父の友人からカメラを贈られ、写真への情熱に目覚めます。18才で日本橋の実用航空研究所に入所後、銀座のオリエンタル写真工業を経て、フリーランスのカメラマンとなり、1939年に取材で新潟県の高田市を訪ねました。東京で生まれ育ち、華やかな都会風俗しか知らなかった濱谷は、「雪国」の厳しい風土とそこでの人々の営みに接して感銘を受けます。時代が戦争に突き進むなか、濱谷は心の拠り所として、高田市の雪深い小村落「桑取谷(くわとりだに)」に通い、その地に伝わる正月行事を民俗学的視点からフィルムに刻み続けました。

戦後は、日本海側の人々の厳しい暮らしや、安保闘争を精力的に取材し、社会に問題提起を行いました。やがて日本が高度成長期に入り、メディアが多様化するなか、写真の方向性に悩んだ濱谷は、世界各地を巡り歩き、またエヴェレストをはじめ世界の大自然をテーマに写真を撮るようになります。

報道写真家、ドキュメンタリー写真家として高く評価され、1987年には写真界のノーベル賞といわれるハッセルブラッド基金の「国際写真賞」を受賞した濱谷ですが、彼が終生追い求めたのは「人間が生きるとは何か」という問いかけへの答えであり、カメラを通してこの世界に向けた真摯な眼差しが、多くの人々に感動を与えました。

この特集展では、戦前・戦中・戦後と激動の時代を生きるなかで、つねに社会に対する先鋭的な問題意識を持ち続け、それを写真に表現した濱谷の作品 70 点により、その写真人生を回顧しました。

●出品リスト

No	作品名	撮影年	サイズ[mm]	掲載写真集
1	花を売る少年	1936(昭11)年	300×198	『昭和男性諸君』1989年 私家版
2	クリスマス・イブの酔客	1935(昭10)年	198×299	『昭和男性諸君』1989年 私家版
3	芸者を乗せた人力車	1938(昭13)年	299×198	『昭和男性諸君』1989年 私家版
4	満州開拓団の鉄道警備員の一家	1940(昭15)年	299×198	『昭和男性諸君』1989年 私家版
5	ハルビン孤児院の混血児	1940(昭15)年	299×198	『生の貌 濱谷浩写真集成』1981年 岩波書店
6	横須賀海兵団横隊行進	1941(昭16)年	198×299	『昭和男性諸君』1989年 私家版
7	陸軍兵器学校の教育	1941(昭16)年	198×299	『昭和男性諸君』1989年 私家版
8	ホンヤラ洞にゆく子供たち	1940-49(昭15-24)年	298×198	『雪国』1956年 毎日新聞社
9	ホンヤラ洞で歌う子供たち	1940-49(昭15-24)年	299×198	『雪国』1956年 毎日新聞社
10	草鞋を売る老婆	1940-49(昭15-24)年	299×198	『雪国』1956年 毎日新聞社
11	雁木下をゆくゴゼ	1940-49(昭15-24)年	298×198	『雪国』1956年 毎日新聞社
12	村の全景	1940-49(昭15-24)年	198×298	『雪国』1956年 毎日新聞社
13	アキの方向に向かって歩きだす	1940-49(昭15-24)年	299×198	『雪国』1956年 毎日新聞社
14	若木迎えの山に入る	1940-49(昭15-24)年	198×298	『雪国』1956年 毎日新聞社
15	若木に祈る	1940-49(昭15-24)年	299×198	『雪国』1956年 毎日新聞社
16	スイサンボ	1940-49(昭15-24)年	199×300	『雪国』1956年 毎日新聞社
17	餅をつく	1940-49(昭15-24)年	198×299	『雪国』1956年 毎日新聞社
18	十五日夜のおまいり	1940-49(昭15-24)年	239×238	『雪国』1956年 毎日新聞社
19	村の子供	1940-49(昭15-24)年	299×198	『雪国』1956年 毎日新聞社
20	歌ってゆく鳥追い	1940-49(昭15-24)年	198×298	『雪国』1956年 毎日新聞社
21	水浴びする河原	1940-49(昭15-24)年	300×238	『雪国』1956年 毎日新聞社
22	理趣文の点読	1940-49(昭15-24)年	299×198	『雪国』1956年 毎日新聞社
23	地藏様年始	1940(昭15)年	298×198	『雪国』1956年 毎日新聞社
24	太刀をもつ子	1940-49(昭15-24)年	198×299	『雪国』1956年 毎日新聞社
25	フレゴト	1940-49(昭15-24)年	300×199	『雪国』1956年 毎日新聞社
26	火を移す	1940-49(昭15-24)年	198×299	『雪国』1956年 毎日新聞社
27	サイの神の行事に集まった人たち	1940-49(昭15-24)年	198×299	『雪国』1956年 毎日新聞社
28	タイムツのうちあい	1940-49(昭15-24)年	198×299	『雪国』1956年 毎日新聞社
29	朝の祝餅	1940-49(昭15-24)年	300×199	『雪国』1956年 毎日新聞社
30	寺参り	1940-49(昭15-24)年	300×237	『雪国』1956年 毎日新聞社
31	終戦の日の太陽	1945(昭20)年	198×299	『昭和男性諸君』1989年 私家版
32	共同井戸	1955(昭30)年	198×297	『裏日本』1957年 新潮社
33	海の家族	1955(昭30)年	198×299	『裏日本』1957年 新潮社
34	氷の下の地曳き網	1955(昭30)年	198×299	『裏日本』1957年 新潮社
35	田植女	1955(昭30)年	298×198	『裏日本』1957年 新潮社
36	雲と波と雪と家	1955(昭30)年	198×299	『裏日本』1957年 新潮社
37	津軽の男	1955(昭30)年	198×297	『裏日本』1957年 新潮社
38	赤子を背負った子	1955(昭30)年	199×299	『裏日本』1957年 新潮社
39	雪に暮れる部落	1955(昭30)年	299×198	『裏日本』1957年 新潮社
40	港のない漁村	1955(昭30)年	198×297	『裏日本』1957年 新潮社
41	山の暮らし	1955(昭30)年	200×300	『裏日本』1957年 新潮社
42	湯滝にうたれる女たち	1957(昭32)年	299×198	『裏日本』1957年 新潮社
43	迎え火	1948(昭23)年	300×198	『女人暦日』1985年 私家版
44	眼科医の小島彦造先生	1950(昭25)年	299×198	『昭和男性諸君』1989年 私家版
45	引揚者	1953(昭28)年	299×198	『昭和男性諸君』1989年 私家版
46	戦災で渡道、開拓地に移った家族	1957(昭32)年	299×198	『昭和男性諸君』1989年 私家版
47	国会議事堂南通用門、激突の誘い水となった放水	1960(昭35)年	299×198	『昭和男性諸君』1989年 私家版
48	キャッシー—木下千鶴嬢	1976(昭51)年	299×198	『昭和女人集』1985年 毎日新聞社
49	生毛を剃る女	1956(昭31)年	298×198	『生の貌 濱谷浩写真集成』1981年 岩波書店
50	楽器をもつ少年	1956(昭31)年	299×198	『生の貌 濱谷浩写真集成』1981年 岩波書店
51	豊年祝の面をつけた男	1963(昭38)年	299×198	
52	ワシントン・モニュメント	1967(昭42)年	299×198	『生の貌 濱谷浩写真集成』1981年 岩波書店

53	キングスロードの若者	1969(昭44)年	200×299	『生の貌 濱谷浩写真集成』1981年 岩波書店
54	島の若者	1973(昭48)年	198×299	『生の貌 濱谷浩写真集成』1981年 岩波書店
55	クーデター報告集会	1978(昭53)年	199×299	『生の貌 濱谷浩写真集成』1981年 岩波書店
56	古代豪族の墓	1979(昭54)年	198×299	『生の貌 濱谷浩写真集成』1981年 岩波書店
57	アシカ	1959(昭34)年	298×198	
58	藤田嗣治	1938(昭13)年	299×198	『學藝諸家』1983年 岩波書店
59	上村松園	1944(昭19)年	298×198	『學藝諸家』1983年 岩波書店
60	堀口大樹	1946(昭21)年	298×198	『學藝諸家』1983年 岩波書店
61	安井曾太郎	1949(昭24)年	298×198	『學藝諸家』1983年 岩波書店
62	小林古徑	1949(昭24)年	298×198	『學藝諸家』1983年 岩波書店
63	會津八一	1950(昭25)年	298×198	『學藝諸家』1983年 岩波書店
64	棟方志功	1951(昭26)年	198×298	『學藝諸家』1983年 岩波書店
65	木村莊八	1952(昭27)年	298×198	『學藝諸家』1983年 岩波書店
66	三岸節子	1952(昭27)年	298×198	『學藝諸家』1983年 岩波書店
67	高橋誠一郎	1952(昭27)年	298×198	『學藝諸家』1983年 岩波書店
68	小林秀雄	1955(昭30)年	198×298	『學藝諸家』1983年 岩波書店
69	川端康成	1956(昭31)年	198×298	『學藝諸家』1983年 岩波書店
70	安田靉彦	1970(昭45)年	298×198	『學藝諸家』1983年 岩波書店

※出品写真の技法はすべてゼラチンシルバープリント(銀塩写真)。※出品写真はすべて当館所蔵作品。

●関連事業

事業名	日時、場所、講師等	参加者数
学芸員によるギャラリートーク	3月25日(水) 15:30～ 平塚市政モニター 展示室/解説:小池光理(当館学芸員)	29人
団体向けレクチャー	3月26日(木) ソノラスコート茅ヶ崎	18人
	4月7日(火) 平塚ラスカ新人研修	15人
	4月9日(木) ルクセンブルグ・ロータリークラブ	5人
ワークショップ プレレクチャー	4月12日(土) ワークショップ「写真で表現」参加者	7人

●主な紹介記事・番組

月日	紹介内容
2月26日(木)	「写真家 濱谷浩の眼」 タウンニュース No1089
3月 5日(水)	「浜谷さん没後10年 平塚で報道記録写真展」 読売新聞 湘南版
3月18日(水)	「「田植女」濱谷浩 なぜ体だけ写したのか」 朝日新聞 水曜アート 美の履歴書100
3月27日(金)	「浜谷浩 高田時代から一貫性」 新潟日報 文化
4月	「没後10年 写真家濱谷浩の眼」 定年時代

■追記

当館で2008年2～3月に開催した「河野通勢展」が、美術館連絡協議会の「美連協大賞」を受賞しました。

Ⅲ 教育普及

(1) 教育プログラム

平成20年度は、47のプログラムを実施し、参加者数は1,034人。

担当：端山聡子(当館学芸員)、六島芳朗(当館嘱託員)

■1 ガラスのグラスを金や模様で彩ろう		参加者 61人
○日数・開催日	4/2(水) 午前・午後2回開催	○講師：井上三枝子さん(ポーセリンアーティスト)
○対象	小学生	○内容：グラスにカラフルな模様を描き窯で焼き付けた。
○材料費	1,000円	
■2 春休みファミリーワークショップ フェルト玉くるくるアクセサリ		参加者 22人
○日数・開催日	4/5(土)	○講師：永井悦子さん(染織アーティスト)
○対象	小学生	○内容：フェルトで大小の玉をつかって革紐でつなぎ、フェルト玉ネックレスを制作。
○材料費	1,000円	
■3 身体で表現するー静かにゆっくり動かそうー		参加者 16人
○日数・開催日	4/13(日)	○講師：三上宥起夫さん(とりふね舞踏舎)
○対象	一般	○内容：野口体操で身体をほぐし身体表現やダンスを始める導入を体験。
○材料費	無料	
■4 アニメで遊ぼう(パラパラアニメ体験講座)		参加者 27人
○日数・開催日	4/26(土)	○講師：村田朋泰さん(映像作家)
○対象	小学生	○内容：40枚の漫画を描きデジタルカメラで撮影し編集して約5秒の動画制作を体験。
○材料費	無料	
■5 はじめての水彩画ー美術館のある風景ー		参加者 13人
○日数・開催日	4/26(土), 4/27(日) 連続講座	○講師：今村信夫さん(画家)
○対象	一般	○内容：美術館を中心に周辺の風景をスケッチ。透明水彩とスケッチの基礎を体験。
○材料費	2,000円	
■6 エッチング(銅版画)を刷ろう		参加者 12人
○日数・開催日	4/29(火祝), 4/30(水) 連続講座	○講師：大森濤さん(銅版画家)
○対象	一般	○内容：ハガキサイズのモノクロ銅版画を制作。
○材料費	3,000円	
■7 光る☆どろだんごをつくろう!		参加者 34人
○日数・開催日	5/6(火祝) 午前・午後2回開催	○講師：岩月真由子さん(土の美術家)
○対象	小学生	○内容：左官の技法「千石磨き」を使って光るどろだんごを制作。
○材料費	1,000円	
■8 東海大学との協働事業 絵画から彫刻へ、彫刻から絵画へ		参加者 17人
○日数・開催日	5/17(土), 24(土), 31(土) 連続講座	○講師：東海大学芸術学科美術学課程の先生方
○対象	一般	○内容：当館の彫刻を題材に、絵画と彫刻について木炭でデッサンすること、粘土で造形することを通して基礎を学んだ。
○材料費	2,500円	
■9 竹でつくる野の花を活けるかご		参加者 16人
○日数・開催日	5/11(日), 25(日), 6/8(日) 連続講座	○講師：藤塚松星さん(竹芸作家)
○対象	一般	○内容：六目編みの竹の花かごと花をいれる「おとし」の制作。
○材料費	2,000円	

●「平塚七夕まつり」共催関連プログラム (NO10～13)

■10 七夕にちなんだ菓子をつくろう		参加者 16 人
○日数・開催日	6/14(土)	○講師：御園井裕子さん（創作和菓子作家）
○対象	ファミリー	○内容：五色の糸にちなんだ「五色餅」と天の河をイメージした「錦玉羹あまの」をつくった。
○材料費	1,000 円	

■11 七夕の伝統飾りを再現展示する		参加者 16 人
○日数・開催日	6/18(水), 19(木), 20(金) 連続講座	○講師：端山聡子（当館学芸員）
○対象	一般	○内容：七夕の伝統的しつらえを再現展示。
○材料費	無料	

■12 七夕にちなんだ物語を読む		参加者 14 人
○日数・開催日	6/28（土）	○講師：平塚市中央図書館読み聞かせボランティア
○対象・定員	ファミリー	○内容：館内の七夕の伝統飾りを見学した後、七夕に関する物語の朗読を聞いた。
○材料費	無料	

■13 子ども七夕茶会		参加者 11 人
○日数・開催日	7/12(土)	○講師：高橋静枝さん（茶の湯研究者）
○対象	ファミリー	○内容：伝統飾りの解説、聞香のあそび、博物館の茶室で茶会を開き、日本の伝統文化に親しんだ。
○材料費	1,000 円	

■14 木の実でアート		参加者 22 人
○日数・開催日	7/20(日)	○講師：田島征三さん（絵本作家）
○対象	小学生	○内容：木の実や落ち葉を集めてアートボックスを制作。
○材料費	無料	

■15 風にゆらゆら透かし葉モビール		参加者 9 人
○日数・開催日	7/26(土)	○講師：林克己さん（ワークショップボランティア）
○対象	小学生	○内容：自然素材でつくる美しい透かし葉モビールを制作。
○材料費	1,000 円	

■16 砂のワークショップ「砂変幻」		参加者 15 人
○日数・開催日	7/25(金)	○講師：有田正史さん(理学博士) 岩月真由子さん(土の芸術家)
○対象	小中学校教諭	○内容：砂の科学が生み出したサンドボックス「砂変幻」を制作。
○材料費	1,000 円	

■17 へたでも楽しく描くぞー！		参加者 22 人
○日数・開催日	7/30(水)	○講師：平塚美術家協会会員の先生方
○対象	小学生～高校生	○内容：季節の果物や野菜をモチーフに、ダイナミックに描くことを楽しんだ。
○材料費	500 円	

■18 作ってあそぼうーわくわくランドー		参加者 43 人
○日数・開催日	8/2(土)	○講師：平塚市保育士のみなさん
○対象	ファミリー	○内容：保育士の指導でけん玉やブンブンごま、フォトフレームなどおもちゃの制作。
○材料費	無料	

■19 夏のマイバッグー藍のおこち絞りー		参加者 5 人
○日数・開催日	8/3(日)	○講師：ワークショップボランティア
○対象	小学4年生～中学生	○内容：木綿のバッグにおこち絞りの技法で模様を染めた。
○材料費	1,500 円	

■20 光る☆どろだんごをつくろう!		参加者 43 人
○日数・開催日	8/7 (木) 午前・午後 2 回開催	○講師: 岩月真由子さん (土の美術家)
○対象	小学生	○内容: 左官の技法「千石磨き」を使って光るどろだんごを制作。
○材料費	1,000 円	
■21 作ってあそぼうーわくわくランドー		参加者 34 人
○日数・開催日	8/9(土)	○講師: 平塚市保育士のみなさん
○対象	ファミリー	○内容: 保育士の指導でけん玉やブンブンごま、フォトフレームなどおもちゃの制作。
○材料費	無料	
■22 木の実でアート		参加者 22 人
○日数・開催日	8/10(日)	○講師: 田島征三さん (絵本作家)
○対象	小学生	○内容: 木の実や落ち葉を集めてアートボックスを制作。
○材料費	無料	
■23 墨で描こう! 絵のような文字のような		参加者 14 人
○日数・開催日	8/17(日)	○講師: 成田真洞さん (現代書家)
○対象	小学生	○内容: 古代人の文字の造形感覚を学び、墨を使って描くこと、書くことを体験。
○材料費	1,000 円	
■24 光る☆どろだんごをつくろう!		参加者 39 人
○日数・開催日	8/21 (土) 午前・午後 2 回開催	○講師: 岩月真由子さん (土の美術家)
○対象	小学生	○内容: 左官の技法「千石磨き」を使って光るどろだんごを制作。
○材料費	1,000 円	
■25 もんきりあそび		参加者 22 人
○日数・開催日	8/23(土)	○講師: 下中菜穂さん (造形作家)
○対象	ファミリー	○内容: 江戸から伝わる「もんきりあそび」で、和紙で切り抜いた形をうちわに貼った。
○材料費	1,000 円	
■26 鍛金によるシルバー・アクセサリー		参加者 10 人
○日数・開催日	9/6(土), 9/23(火祝) 連続講座	○講師: 西村エリーザ嘉代子さん (アクセサリー作家)
○対象	一般	○内容: 鍛金の技法で 2 種類の現代的なシルバー・アクセサリーを制作。
○材料費	3,000 円	
■27 ひかりのアート「素焼きのあかり」		参加者 54 人
○日数・開催日	9/13(土) 午前・午後 2 回開催	○講師: 塩田亜希子さん (陶のあかり作家)
○対象	ファミリー、一般	○内容: 陶のランプシェードを制作。12 月のアートフェアで作品による光のインスタレーションを実施。
○材料費	500 円	
■28 砂の中からあらわれるサンドアート「砂変幻」		参加者 8 人
○日数・開催日	9/20(土)	○講師: 岩月真由子さん (土の美術家)
○対象	小学 3 年生～中学生	○内容: 砂の科学が生み出したサンドボックス「砂変幻」を制作。
○材料費	1,500 円	
■29 マイバッグ・エコバッグ -藍の絞り染め-		参加者 24 人
○日数・開催日	9/27(土)	○講師: ワークショップボランティア
○対象	一般	○内容: 木綿の布バッグにおっこち絞りの技法で模様を染めた。
○材料費	1,500 円	
■30 エッチング(銅版画)入門		参加者 10 人
○日数・開催日	9/28(日), 10/5(日) 連続講座	○講師: 大森濤さん (銅版画家)
○対象	一般	○内容: 当館のプレス機を使い、ハガキ大の銅版画を制作。
○材料費	3,000 円	

■31 ひかりのアート「素焼きのあかり」		参加者 17 人
○日数・開催日	10/4(土) 午前・午後 2 回開催	○講師：塩田亜希子さん (陶のあかり作家)
○対象	ファミリー、一般	○内容：陶のランプシェードを制作。12 月のアートフェアで作品による光のインスタレーションを実施。
○材料費	500 円	
■32 光る☆どろだんごをつくろう！		参加者 36 人
○日数・開催日	10/13 (月祝) 午前・午後 2 回開催	○講師：岩月真由子さん (土の美術家)
○対象	小学生	○内容：左官の技法「千石磨き」を使って光るどろだんごを制作。
○材料費	1,000 円	
■33 日本の絵画材料の歴史—江戸時代から現代まで—		参加者 19 人
○日数・開催日	10/18(土)	○講師：上田邦介さん(日本画材研究家)
○対象	一般	○内容：日本画材の種類と変遷についてレクチャー後、新しい日本画材でパネルに空と海を描いた。
○材料費	2,000 円	
■34 日本画の筆をつくる		参加者 35 人
○日数・開催日	10/26(日)	○講師：阿部信治さん (日本画筆研究家・製作家)
○対象	一般	○内容：筆作りの材料・技術に関するレクチャーと製作実演。参加者による筆作りの仕上げ体験。
○材料費	2,000 円	
■35 ひかりのアート「素焼きのあかり」		参加者 35 人
○日数・開催日	11/1(土) 午前・午後 2 回開催	○講師：塩田亜希子 (陶のあかり作家)
○対象	ファミリー、一般	○内容：陶のランプシェードを制作。12 月のアートフェアで作品による光のインスタレーションを実施。
○材料費	500 円	
■36 砂の中からあらわれるサンドアート「砂変幻」		参加者 4 人
○日数・開催日	11/15(土) 午前(午後は「どろだんご」)	○講師：岩月真由子さん (土の美術家)
○対象	小学 3 年生～中学生	○内容：砂の科学が生み出したサンドボックス「砂変幻」を制作。
○材料費	1,500 円	
■37 大人のどろだんご講座		参加者 18 人
○日数・開催日	11/15(土) 午後(午前は「砂変幻」)	○講師：岩月真由子さん (土の美術家)
○対象	一般	○内容：左官の技法「千石磨き」を使って光るどろだんごを制作。
○材料費	1,200 円	
■38 カラフルなフェルトでべったんこ絵をつくろう		参加者 13 人
○日数・開催日	11/23(日)	○講師：永井悦子さん (染織アーティスト)
○対象	小中学生	○内容：フェルトを石けんで洗浄後、縮重して定着させ、壁掛け等の作品を制作。
○材料費	1,000 円	
■39 透かし葉をつかってつくるクリスマスカード		参加者 21 人
○日数・開催日	12/7(日)	○講師：ワークショップボランティア
○対象	小学生	○内容：ヒイラギモクセイのクリスマスカードを制作。
○材料費	1,000 円	
■40 光を通すガラスの立体 キャスティング		参加者 15 人
○日数・開催日	1/24(日), 2/7(日), 15(土) 連続講座	○講師：奥野美果さん (ガラス作家)
○対象	一般	○内容：陶芸窯を使って、キャストイングの方法で半透明のガラスの立体作品を制作。
○材料費	3,000 円	
■41 カラフルな鬼のお面を作ろう！		参加者 18 人
○日数・開催日	2/1(土) 午前(午後は「どろだんご」)	○講師：岩月真由子さん (土の美術家)
○対象	4 才～小学生	○内容：粘土で節分の鬼のお面を制作。
○材料費	800 円	

■42 大人のどろだんご講座		参加者 20 人
○日数・開催日	2/1(土) 午後(午前は「鬼のお面」)	○講師：岩月真由子さん(土の美術家)
○対象	一般	○内容：左官の技法「千石磨き」を使って光るどろだんごを制作。
○材料費	1,200 円	
■43 ダイナミック! 子どものための陶の造形		参加者 22 人
○日数・開催日	2/21(土), 3/20(金祝) 連続講座	○講師：伊集院真理子さん(陶芸)
○対象	小学生	○内容：身体をつかって陶土で遊んでからダイナミックな造形を体験。
○材料費	1,500 円	
■44 陶のランプシェード		参加者 20 人
○日数・開催日	3/14(土)	○講師：塩田亜希子さん(陶のあかり作家)
○対象	高校生～一般	○内容：陶のランプシェードを制作。
○材料費	500 円	
■45 マイボールペンをつくろう!!		参加者 26 人
○日数・開催日	3/22(日)	○講師：岩田晶子さん(子ども美術教室講師)
○対象	小学生	○内容：カラー粘土でオリジナル・ボールペンを制作。
○材料費	200 円	
■46 植物の色 茜 絞り染めによる絹のスカーフ		参加者 20 人
○日数・開催日	3/15(日), 3/29(日) 連続講座	○講師：ワークショップボランティア
○対象	一般	○内容：天然染料茜で染めて、絹のスカーフを制作。
○材料費	3,000 円	
■47 春休みファミリーワークショップ1 ガラスのコップを模様で彩ろう		参加者 24 人
○日数・開催日	3/26(木)	○講師：井上三枝子さん(ポーセリンアーティスト)
○対象	ファミリー	○内容：ガラスにカラフルな模様を描き窯で焼き付けた。
○材料費	1,000 円	
■年間活動 ワークショップのボランティアスタッフ		
○活動期間	2008 年 4 月から 2009 年 3 月	○指導：端山聡子(当館学芸員)
○対象	一般	○内容：年間を通じてワークショップの手伝いや指導をする活動。
○参加費	無料	

●ワークショップに関する主な紹介記事・番組

月日	紹介内容
6 月 21 日(土)	「七夕伝統飾り再現 平塚で今日から一般公開」 毎日新聞
6 月 21 日(土)	小林一登「伝統の七夕飾り市民が再現展示 7 月まで平塚市美術館」 神奈川新聞
6 月	「七夕の伝統飾りを再現 ワークショップで手づくり」 湘南ホームジャーナル
7 月 13 日(日)	「日本古来の七夕楽しむ 平塚の子供たち「聞香」など体験」 神奈川新聞
8 月 19 日(火)	「夏、学ぶ子 絵のような文字のような」 読売新聞
8 月 24 日(日)	「紋切り遊びに挑戦」 読売新聞

(2) 団体むけ研修・体験プログラム

No	種別	開催日	団体名	内容	人数
1	学習	5月15日(木)	公民館自主事業 鑑賞講座	「村田朋泰展」見学：4 公民館(崇善、松原、富士見、大神)	27人
2	実習	5月～09年1月 各実習生12日	各大学	学芸員資格取得のための実習	7人
3	学習	5月22日(木)	公民館自主事業 鑑賞講座	「村田朋泰展」見学：10 公民館(岡崎、神田、城島、大野、八幡、四之宮、中原、松が丘、大原、南原)	37人
4	学習	6月18日(水)	国際学園星槎中学校	「夏の所蔵品展」見学(生徒83、引率6)	89人
5	視察	6月20日(水)	カンザス大学日本語・日本研究プログラム	「夏の所蔵品展」見学(留学生17、引率3)	20人
6	学習	6月20日(水)	平塚市立南原小学校	「夏の所蔵品展」見学(小学生26、引率9)	35人
7	学習	7月13日(日)	ボーイスカウト平塚第3回カブ隊	「夏の所蔵品展」見学(留学生17、引率3)	20人
8	学習	7月23日(水)	NHK文化センター横浜教室	「田島征三展」見学(「湘南散歩」)	15人
9	視察	7月29日(火)	伊勢原市小学校教育研究会 図工部	「田島征三展」見学	34人
10	学習	7月31日(木)	公民館自主事業 鑑賞講座	「田島征三展」見学：7 公民館(大野、八幡、四之宮、松が丘、大原、南原)	33人
11	学習	8月14日(木)	公民館自主事業 鑑賞講座	「田島征三展」見学：2 公民館(崇善、松原)	16人
12	学習	8月29日(金)	平塚市適応指導教室	「田島征三展」見学(中学生10、引率5)	15人
13	研修	10月4日(土)	茨城県近代美術館友の会	「速水御舟展」見学	80人
14	学習	10月4日(土)	開成町教育委員会生涯学習課 町民センタ講座	「速水御舟展」見学	11人
15	学習	10月7日(火)	NHK文化センター町田教室	「速水御舟展」見学(「美術館めぐり」)	9人
16	視察	10月9日(木)	掛川市二の丸美術館協議会	「速水御舟展」見学	10人
17	学習	10月23日(木)	公民館自主事業 鑑賞講座	「速水御舟展」見学：2 公民館(大神、崇善)	26人
18	学習	10月29日(日)	神奈川県立栗原高校	「伊藤彬展」見学(高校生9、引率1)	10人
19	視察	11月5日(水)	サンシティ神奈川	「速水御舟展」見学	43人
20	学習	11月6日(木)	公民館自主事業 鑑賞講座	「速水御舟展」見学：3 公民館(岡崎、神田、城島)	37人
21	視察	11月19日(水)	アート21	「鳥海青児と三岸好太郎展」見学	20人
22	学習	1月11日(日)	公民館自主事業 鑑賞講座	「鳥海青児と三岸好太郎展」見学	21人
23	視察	2月5日(木)	厚木南民生委員・児童委員協議会	「新春の所蔵品展」見学	20人
24	視察	3月25日(水)	平塚市市政モニター	「写真家濱谷浩の眼展」見学	29人
25	視察	3月26日(木)	ソノラスコート茅ヶ崎	「写真家濱谷浩の眼展」見学	18人
計					682人

(3) 職場体験受け入れ

市内の中学生、高校生を対象に、職場の現場で仕事を実際に体験することにより、社会性・勤労観やマナーを身につけ、将来の職業選択につながることを期待して職場体験の受け入れを行った。

No	受入日	参加者	人数	内容
1	7月2日(水)	大磯高等学校1年生	19人(男子2・女子17)	学芸員の仕事、施設見学
2	7月24日(木)	大原高等学校2年生	4人(女子)	館の概要及び職場体験
3	7月29日(火)	神田高等学校2年生	2人(女子)	館の概要及び職場体験
4	8月27日(水)	大野中学校2年生	2人(男子1・女子1)	館の概要及び職場体験
5	2009年1月29日(木)	大住中学校1年生	2人(男子)	館の概要及び職場体験
			総計29人	

IV その他の事業

(1) 事業

1 第31回 平塚市展

平塚市美術館が開館した1991年に第14回平塚市展を展示室と市民アートギャラリーを使用して開催、以降毎年、同施設を利用して開催している。

日時・日数	2008年6月8日(日)-6月22日(日) 13日
主催	平塚市展委員会
協力	平塚書道協会/湘南美術工芸研究会/平塚美術家協会/平塚写真連盟/平塚市教育委員会平塚写真連盟/平塚市教育委員会
後援	平塚市/平塚市文化連盟/平塚商工会議所/平塚市文化財団
場所	美術館展示室、市民アートギャラリー
入場者数	7,032人

2 ミュージアムコンサート 親子でクラシック

日時	2008年6月21日(土) 14:30-
主催	平塚市/平塚市美術館/平塚市文化財団
出演者	平塚音楽家協会会員/小田切一恵(ソプラノ)、岩井周子(メゾソプラノ)、諏訪部崇世(ソプラノ)、田中園子(ヴァイオリン)、佐藤やえこ(ピアノ)
場所	美術館テーマホール
入場者数	250人

3 アートフェア2008

今年実施したワークショップの参加者作品を集め、発表会を開催。21日にはミニコンサートも開催し、キャンドルをいれてライトアップした素焼きの作品を背景に、優雅な音色を堪能した。

日時・日数	12月20日(土)-21日(日) 9:30-16:30(最終日は15:30まで) 2日
主催	平塚市美術館
場所	美術館テーマホール
参加者数	372人(うちミニコンサート160人)

●ミニコンサート&キャンドルのライトアップ

アートフェア 2008 開催中の 21 日(日)に、古楽器ルネサンス・リコーダーによるミニコンサートを開催した。
出演者：アンサンブル・ジョット(大竹尚之、伊豫田祐子、高橋美香、水野しのぶ、佐藤隆夫)

4 こども年賀状展

美術館を身近に感じてもらう取り組みとして、小学生を対象に年賀状を募集、届いた年賀状を展示する「こども年賀状展」を開催。来場者には年賀状を模してデザインしたカード「美術館からの返事」を配布した。また来場者が、年賀状の返事やメッセージを書く「こどもたちへのお返事コーナー」を会場に設けた。

日時・日数	2009年1月7日(水)-12日(月祝) 9:30-16:50(最終日は16:00まで) 6日
主催	平塚市美術館
出品点数	530点
場所	市民アートギャラリー
参加者数	957人

5 ミュージアムコンサート 弦楽四重奏によるミュージアムコンサート～春までもう少し～

日時	2009年1月31日(土) 14:00-
主催	平塚市美術館
出演者	新日本フィルハーモニーメンバー：堀内麻貴(第一ヴァイオリン)、西本徳子(第二ヴァイオリン)、小山千鶴(ヴィオラ)、弘田徹(チェロ)
場所	美術館テーマホール
参加者数	200人

(2) 定例会議

●美術館協議会

○委員(敬称略) 8名

山梨俊夫(学識経験者)、滝波重人(学識経験者)、田代信子(学識経験者)、朝野哲夫(学校教育関係者)、小宮節子(学校教育関係者)、野谷悦(学校教育関係者)、渡辺渉(社会教育関係者)、村上実樹(社会教育関係者)

○開催日/議題

第1回 2008年10月28日(火) 平成20年度上半期事業報告、平成20年度下半期事業計画について

第2回 2009年3月25日(水) 平成20年度下半期事業報告、平成21年度事業計画(案)について

●美術品選定評価委員会

○委員(敬称略) 5名

酒井忠康(学識経験者・委員長)、荒屋鋪透(学識経験者・副委員長)、加藤弘子(学識経験者)、猿渡紀代子(学識経験者)、水沢勉(学識経験者)

○開催日/議題

2008年12月13日(土) 寄贈・寄託作品の収蔵の是非と評価について

(3) 「平塚市美術館友の会」活動

2002年4月発足。会員は美術館主催事業または連携事業を通じて交流をもち、各自の知識と教養を深め、平塚市の文化芸術の向上に寄与することを目的に設立。

○会員数：243人

○特典：2004年4月より実施。特集展は団体料金を適用、企画展は100円を減免。企画展レクチャーの案内。

○活動：友の会レクチャーの実施。

村田朋泰展 4月19日(土)

田島征三展 7月20日(日)、8月10日(日)

速水御舟展 10月26日(日)、11月3日(月祝)

鳥海青児と三岸好太郎展 11月22日(土)、12月14日(日)

V 施設利用者等の統計

(1) 展覧会

●入場者数 月別統計

月	開館日数	企画展	特集展	合計
4月	26日	2,978人	1,985人	4,963人
5月	28日	7,163人	3,923人	11,086人
6月	25日	—	1,185人	1,185人
7月	27日	2,156人	1,700人	3,856人
8月	27日	7,362人	4,264人	11,626人
9月	25日	—	1,178人	1,178人
10月	27日	11,018人	8,113人	19,131人
11月	27日	7,309人	4,632人	11,941人
12月	24日	2,192人	1,527人	3,719人
1月	24日	2,470人	2,864人	5,334人
2月	24日	—	969人	969人
3月	26日	—	1,298人	1,298人
計	310日	42,648人	33,638人	76,286人

●学校観覧

		企画展			特集展		
		学校数	生徒数	教員数	学校数	生徒数	教員数
小学校	市内	1校	11人	4人	8校	484人	29人
	市外	11校	868人	47人	18校	1,326人	73人
中学校	市内	12校	144人	34人	16校	158人	43人
	市外	3校	24人	5人	6校	122人	17人
高等学校		1校	9人	1人	3校	35人	5人
計		28校	1,056人	91人	51校	2,125人	167人

(2) 貸出施設

●市民アートギャラリー 月別統計

月	利用日数	団体数	入場者数
4月	31日	6団体	5,685人
5月	23日	7団体	4,540人
6月	28日	3団体	5,563人
7月	30日	7団体	5,209人
8月	24日	5団体	3,237人
9月	30日	6団体	5,723人
10月	25日	3団体	6,052人
11月	24日	6団体	11,056人
12月	18日	5団体	2,900人
1月	24日	4団体	4,925人
2月	24日	5団体	3,891人
3月	30日	8団体	5,691人
計	311日	65団体	64,472人

●ミュージアムホール 月別統計

月	利用日数	団体数	入場者数
4月	3日	3団体	210人
5月	2日	2団体	160人
6月	12日	12団体	849人
7月	8日	8団体	585人
8月	1日	1団体	260人
9月	13日	14団体	810人
10月	2日	2団体	100人
11月	11日	11団体	799人
12月	7日	7団体	598人
1月	5日	5団体	357人
2月	7日	7団体	326人
3月	16日	17団体	1,312人
計	87日	89団体	6,366人

●アトリエ 月別統計

月	利用日数	団体数	入場者数
4月	4日	4団体	46人
5月	6日	6団体	75人
6月	8日	6団体	96人
7月	7日	7団体	161人
8月	5日	5団体	49人
9月	11日	7団体	506人
10月	2日	3団体	22人
11月	5日	5団体	86人
12月	5日	5団体	80人
1月	1日	1団体	2人
2月	4日	4団体	18人
3月	4日	4団体	20人
計	62日	57団体	1,161人

VI 施設の管理

(1) 防災訓練・消防設備点検・設備修繕

●防災訓練

実施日時：2008年5月21日(水)／9:00～9:30

内容：通報・消火・避難誘導訓練、各自の役割・展示室からの避難経路の確認

想定：美術館1階の「市民アートギャラリー厨房」で火災発生、設備の担当員が現場に急行したところ、火災発生を確認して事務所に報告した。

●消防点検

点検日：第1回 2008年7月7日(月)／第2回 2009年1月26日(月)

●設備修繕

中央監視装置修繕

工期：2008年9月1日(月)～2009年2月16日(月)

中央監視装置は設置後17年を経過して老朽化が激しく、部品の製造が中止され交換・修理部品の入手が不可となっていた。温湿度の制御不能は、展示室及び収蔵品の保全・管理に重大な影響が出るため、中央監視盤等主要部分の修繕を実施した。

(2) 施設の貸出について

●ミュージアムホール

○講演会、演奏会、映写会、会議等の開催について利用可能（床面積は262㎡、座席数最大150席程度）。

○利用希望者の申込みは一団体(個人)1件とする。

申込手続

○美術館施設利用申込書の提出→審査・許可→使用料納入→美術館施設利用承認書の交付

○受付は利用日の6ヶ月前の日から利用開始7日前まで。受付時間は9:30～17:00。

○ピアノ・マイク等、その他設備の有料貸出しあり。

利用日時

○美術館事業で使用していない開館日に限る。

○利用は半日単位で連続2日間まで。利用時間は、午前が9:30～12:30、午後が13:00～16:50、全日利用が9:30～16:50。

使用料

利用時間帯	平塚市民・団体	平塚市外
午前 9:30～12:30	2,000円	3,000円
午後 13:00～16:50	3,000円	4,500円
全日 9:30～16:50	5,000円	7,500円

※平塚市が協賛または後援する行事の場合の使用料は上記額の半額。

●市民アートギャラリー

○絵画、彫刻、工芸、書、写真等の美術に関する展示希望者への貸出しが可能。希望者多数の場合は抽選。

○施設規模は、天井高が3.5m、床面積はA室が215㎡、B室が149㎡、AB全室利用が365㎡、標準壁面長がA室で68m、B室が57m、AB全室利用で120m。

○利用希望者の申込みは一団体(個人)1件とする。申込み手続は、受付期間に以下の順序で行っている。

申込手続

○展覧会計画書(館所定の用紙)の提出→審査→抽選・調整→美術館施設利用申込書の提出→使用料の納入→美術館施設利用承認書の交付

受付期間

○10月から3月の間に利用希望の場合：4月1日～10日 受付時間9:30～17:00

空室があった場合のみ、5月1日以降、利用開始7日前まで申込みが可能。

○4月から9月の間に利用希望の場合：10月1日～10日 受付時間9:30～17:00

空室があった場合のみ、11月1日以降、利用開始7日前まで申込みが可能。

利用期間と日時

○1日単位で最大1週間(6日間以内=火曜日から日曜日)まで利用可能。時間は9:30～16:50まで。

美術館休館日(月曜定休)は利用不可。

使用料

利用場所	平塚市民・団体	平塚市外
全室	10,000円	15,000円
A室	6,000円	9,000円
B室	4,000円	6,000円

※平塚市が協賛または後援する行事の場合の使用料は上記額の半額。

●アトリエA室・B室

○絵画・彫刻・工芸等の制作希望者への貸出しが可能(床面積はA室157㎡、B室111㎡)。

○利用希望者の申込みは一団体(個人)1件とする。

利用日時

○美術館事業で使用していない開館日に限る。※利用可能日については要問い合わせ

○利用は半日単位で6日間まで 午前利用が9:30～12:30/午後利用が13:00～16:50/全日利用が9:30～16:50

○美術館施設利用申込書の提出→審査・許可→使用料納入→美術館施設利用承認書の交付

○受付は利用日2ヶ月前から利用開始7日前まで、受付時間は9:30～17:00。

●使用料

利用場所	利用時間帯	平塚市民・団体	平塚市外
アトリエA	午前 9:30～12:30	1,500円	2,250円
	午後 13:00～16:50	1,500円	2,250円
	全日 9:30～16:50	2,500円	3,750円
アトリエB	午前 9:30～12:30	700円	1,050円
	午後 13:00～16:50	1,100円	1,650円
	全日 9:30～16:50	1,800円	2,700円

※平塚市が協賛または後援する行事の場合の使用料は上記額の半額。

(3) 組織・運営

館長(1)草薙奈津子 — 副館長(1)鈴木正 — 管理担当長(1)小澤和孝 — 管理担当(4)
— 学芸担当長(1)土方明司 — 学芸担当(5)

Ⅶ 沿革

1971年(S46)

11月 フクスケ画廊2周年記念パーティに集った作家たちより「平塚市へ美術館建設の要望をすること」の申請なされる。加藤一太郎市長、平野博収入役より「一作家一点寄贈運動」の提案。

1977年(S52)

3月 新設された平塚市博物館で「平塚市所蔵美術展」の開催、あわせて『平塚市所蔵美術品目録』の発行。
9月 企画展「鳥海青児と昭和の画家たち展 神奈川芸術祭」(神奈川県立近代美術館共催)、会場は平塚市博物館。

1982年(S57)

5月 社会教育委員会議議長名で「平塚市美術館建設について」の建議が教育長宛になされる。

1984年(S59)

4月 石川京一市長が美術館建設を公約として、市長選2期目に再選される。
5月 「美術館建設研究委員会」発足(庁内組織 委員長:山本桂一郎 教育委員会指導部)。
9月 平塚美術協会が「平塚市美術館早期促進建設の為の陳情書」を市に提出。

1985年(S60)

7月 「平塚市美術館建設基本構想策定委員会」設置(～1986年まで全8回開催)。
※構成委員は次の通り。落合良延、陰里鉄郎、匠秀夫、田中穰、原田実、平野博、升水滋、水島英耀、湯井勝(敬称略)。

1986年(S61)

3月 「平塚市美術館建設基本構想策定」答申。湘南の中心に位置する美術館としてメインテーマを「湘南の美術・光」とする。
4月 「美術館建設基本計画策定連絡協議会」の設置(庁内組織)。
「第1回平塚市美術品選定評価委員会」の開催(於 平塚市博物館)。
9月 「平塚市美術館新築設計技術提案審査会」発足。プロポーザル予備審査会、本審査会を開催、9社の提案を審査。

1988年(S63)

1月 大蔵省との美術館建設用地払い下げ契約完了。(㈱日建設計と委託契約)。
4月 「平塚市教育委員会指導部美術館建設準備室」として博物館から独立、設置。

1989年(H元)

3月 「仮称平塚市美術館建築工事(本体工事費)」の議決なされる。
7月14日 「平塚市美術館建設」起工。仮称平塚市美術館新築工事安全祈願祭に石川市長ほか関係者約70名が出席。

1990年(H2)

10月 「平塚市美術館本体工事」竣工。
12月 「平塚市美術館条例」公布。

1991年(H3) 平塚市美術館開館

3月 美術館のシンボル彫刻《コンストラクション#115》ホセ・デ・リヴェラ作の搬入設置。
3月25日 平塚市美術館開館(初代館長に原田実が就任)、記念式典の開催。26日より一般公開。
開館記念展「スイス プチパレ美術館名品展—タルコフとエコール・ド・パリの画家たち—」～5月5日まで。
5月18日～6月16日 開館記念展「湘南の萬鉄五郎」
7月 「平塚市展」はこの第14回展以降毎年、平塚市美術館展示室と市民アートギャラリーで開催。

1992年(H4)

3月20日～4月19日 「市制60周年記念 相模の禅僧 風外慧薫作品展 平塚市博物館所蔵・高瀬コレクション」
7月 第15回平塚市展から「美術館賞」の設定、審査は館長が行う。
11月14日～12月13日 「市制60周年記念 田中真洲回顧展」開催。

1993年(H5)

7月 博物館実習生の受け入れを開始。

1994年(H6)

3月 教育普及活動関連冊子ワークショップ「読むワークショップ」の刊行開始(年2冊～1999年)。

1995年(H7)

4月 教育普及活動において、市民参加型長期プログラム「ワークショップクラブ」発足。

1996年(H8)

11月9日～12月22日 開館5周年記念展「ミレーとバルビゾン派の画家たち」開催。

10月 美術館内における総合的な地震対策の開始：彫刻転倒防止措置、スポットライト落下防止措置等。

1997年(H9)

4月 2代目館長に福田徳樹(フクダトシキ)就任。

1999年(H11)

5月 常設展示を発展させた、所蔵品による「特集展示」の企画開始。

2000年(H12)

10月14日～22日 平塚市神奈川大学交流提携10周年記念「開港期の神奈川・世界が見た日本」展開催。

2001年(H13)

7月26日～9月30日 開館10周年記念展「湘南の美術・光—美術館建設運動から開館10周年まで」開催。

2002年(H14)

2月9日～3月24日 開館10周年記念展「日本画の巨匠 安田靉彦—歴史画の魅力」開催。

4月 「平塚市美術館友の会」発足。

11月2日～12月23日 市制70周年記念「原精一 人間表現の魅力」展開催。

2003年(H15)

2月2日～3月30日 平塚市・神奈川大学交流事業 地域コレクションシリーズⅢ「神奈川大学図書館所蔵 パリ・コミューンの風刺画 —1871年ペンと大砲の市民革命」展開催。

2004年(H16)

4月 3代目館長に、草薙奈津子(クサギナツコ)就任。

2005年(H17)

7月23日～9月11日 「生誕100年記念 三岸節子展」

2006年(H18)

1月～3月 展示室可動壁のクロス張替え作業のため休室。

9月20日 皇后美智子さまがご来館。

「世界の絵本がやってきた ブラティスラヴァ世界絵本原画展」をご鑑賞されました。

10月14日～11月26日 開館15周年記念展「日本画の巨匠 山本丘人展」開催。

2007年(H19)

4月14日～5月27日 「三沢厚彦アニマルズ+PLUS」展開催。

9月15日～11月4日 「絵で読む宮沢賢治展—賢治と絵本原画の世界」展開催。

2008年(H20)

2月2日～3月23日 河野通勢展 ※美術館連絡協議会の2008年度「美連協大賞」を受賞。

11月7日 秋篠宮紀子妃殿下がご来館。

「近代日本画の巨匠 速水御舟—新たなる魅力」展をご鑑賞されました。

平成 20 年度 平塚市美術館年報

発行年月：2009 年 6 月

編集・発行：平塚市美術館

〒254-0073 神奈川県平塚市西八幡 1-3-3

電話 0463-35-2111

<http://www.city.hiratsuska.kanagawa.jp/art-muse/>

